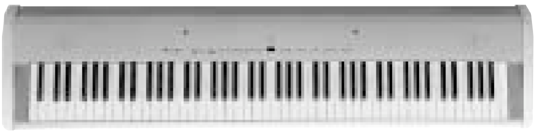
《ごあいさつ》
このたびは、カワイ 電子ピアノes1をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

es1の性能をフルに発揮させるとともに、いつまでも末永くご愛用いただくために、ご使用前に必ず本書をお読みくださいますようお願いいたします。

KAWAI

es1 SYLPHIE

取扱説明書



●同梱品

- □ es1本体
- □ ACアダプター〈PS-125D〉
- □ フットペダル〈F-1r〉
- □ 譜面立て
- □ 取扱説明書(本書)
- □ 保証書
- □ ご愛用者カード
- □ アフターサービスと音楽教室のご案内
- □ Pfunピアノ曲集
- □ 楽譜集のご案内
- □ 楽譜集の払込取扱票

(すべて数量1)

目 次

安全上のご注意 2

準　備 4

1) 付属品(お確かめください) 4
2) es1の特長 5
3) 各部の名称と働き 6
4) 演奏前の準備 8

演奏する 10

1) 音色を選ぶ 10
2) 2つの音色を重ねる［デュアル］ 12
　デュアルの音量バランスを調節する 12
3) 効果を加える 13
　音に拡がりを与える［コーラス］ 13
　音に残響を加える［リバーブ］ 13
　音質を切り替える［イコライザー］ 14
4) 音色デモ曲を聴く 15
5) Pfunピアノ曲 16
　Pfunピアノ曲を聴く 16
　ミュートして合奏する 17
　鍵盤と伴奏の音量バランスを調節する 18
　指定したポイントから再生する 19
　テンポを変える 19
6) コンサートマジック 20
　曲を選ぶ 21
　演奏する 22
　聴く 22
7) タッチカーブを切り替える 23
8) キー(調)を変える［トランスポーズ］ 24
9) メトロノームを鳴らす 25
　テンポを調節する 25
　拍子を選ぶ 26
　音量を調節する 26

演奏の録音・再生 27

1) 録音する 27
　パート1に録音する 27
　パート2に録音する 28
2) 再生する 29
　パートをミュートする 29
3) 録音済みのパートを消去する 30
　すべての曲を消去する 31

各種設定［ファンクション］ 32

1) 設定の種類 32
2) 音程を微調整する［チューニング］ 33
3) イルミネーションパターンを変える 34
4) 設定を記憶させる［メモリー・バックアップ］ .. 35
5) MIDI機能を使う 36
　MIDIについて 36
　es1のMIDI機能 37
　MIDI送受信チャンネルの設定 38
　プログラムナンバーを送信する 39
　ローカルコントロール オン/オフの設定 40
　プログラムナンバー送信 オン/オフの設定 41
　マルチティンバー・モード オン/オフの設定 43

付　録 44

1) 外部機器と接続する 44
2) 主な仕様 46
3) 別売品のご紹介 47
4) MIDIインプリメンテーションチャート 48
5) 容器包装材の識別表示について 49

安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しくお使いください。
ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので必ず守ってください。

警告表示と注意表示の意味

⚠ 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容が記載されています。
⚠ 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容が記載されています。

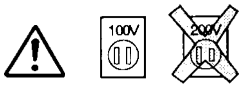
絵表示の例

⚠	△記号は危険、警告、注意を示す内容があることを告げるものです。 左図の場合は「指を挟まないよう注意」が描かれています。
⃠	⃠ 記号は禁止を示す内容があることを告げるものです。 左図の場合は「分解禁止」が描かれています。
●	●記号は強制を示す内容があることを告げるものです。 左図の場合は「電源プラグをコンセントから抜く」が描かれています。

⚠ 警告

電源は、必ずAC100Vを使う
- 電圧の異なる電源を使用しない。
- 火災や感電の恐れがあります。

100V以外禁止



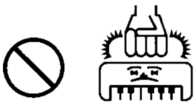
水に濡れた手で、電源プラグを抜き差ししない
- 感電の原因になります。

濡れた手で触らない

本機を水で濡らさない
- 本機に水がかかると、漏電による火災や感電の原因になります。

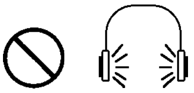
本機の上に乗ったり、無理な力を加えない
- 破損または変形したり、お客様や他の方々がけがをする危険があります。

上に乗らない
よりかからない



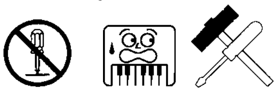
ヘッドホンを、大音量で長時間使用しない
- 聴力低下の原因になる恐れがあります。

長時間使用禁止



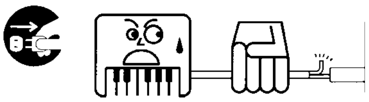
本機を分解、修理、改造しない
- 故障、火災、感電、ショートの原因になります。

分解禁止



電源プラグを抜くときは、必ずプラグ部分を持って抜く
- コードを引っ張るとコードが破損し、火災、感電、ショートの原因になります。

プラグ部分を持つ



長時間使用しないとき、または落雷の恐れがあるときは、必ず電源プラグを抜く
- 落雷時に火災になる恐れがあります。

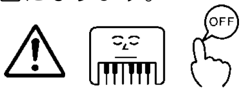
プラグを抜く

⚠注意

本機を次のような所では使用しない
・窓際など直射日光の当たる場所
・暖房器具のそばなど極端に温度の高い場所
・戸外など極端に温度の高いまたは低い場所
・極端に湿度の高い場所
・砂やホコリの多い場所
・振動の多い場所
・不安定な場所
●故障の原因になります

使用禁止

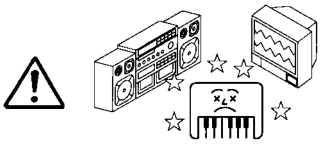
コード類は、各機器の電源を切ってから接続する
●本機や接続機器の故障の原因になります。

電源を切る


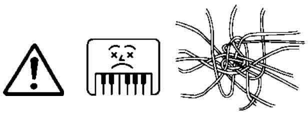
本機の内部に異物を入れないようにする
●水、針、ヘアピン等が入ると、故障やショートの原因になります。

異物を入れない

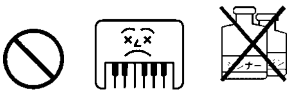
テレビやラジオなどの電気機器の近くに置かない
●本機が雑音を発する恐れがあります。
●本機が雑音を発したら、他の電気機器から十分に離すか、他のコンセントをご利用ください。



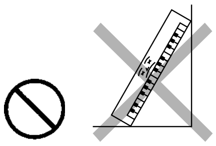
電源コード、接続コード類はからまないようにに接続する
●コードが破損し、火災、感電、ショートの原因になります。

からまないようにする


ベンジンやシンナーで本機を拭かない
●変色や、変形の原因になります。
●清掃するときは、柔らかい布をぬるま湯につけて、よく絞ってから拭いてください。

ベンジン／シンナー禁止


本機はハンマーアクション鍵盤を搭載しているため、特に次の点に注意してください。
●本機を長期間立てたままにしたり、通常の演奏では考えられない無理な力を鍵盤にかけると、故障の原因になります。



●ヘッドホンを使用したり、音量を下げて演奏すると、構造上打鍵音（メカニズム音）が若干聞こえますが異常ではありません。ご了承ください。

●コンセントの抜き差しが容易にできるように、本機を電源コンセントの近くに設置してください。

●本機の電源スイッチをオフにしていても、コンセントを差し込んだ状態であれば、本機に電源がつながっています。感電にご注意ください。

●運搬の際は、なるべく2人以上で運んでください。

■ 保護シートについて
●パネル上のディスプレイと譜面立てには、あらかじめ保護用シートが貼り付いています。

■ パネル上の設定のバックアップについて
●パネル上の各種設定は、メモリー・バックアップ（35ページ参照）によって、電源を切っても約1週間保持されます。約1週間以上過ぎると設定が消えてしまいますので、1週間以内に数分間は電源を入れてください。また、このデータは故障や誤操作などのために失われることがありますので、ご注意ください。

■ 保証書について
●本製品をお買い求めの際、販売店で必ず保証書の手続きを行ってください。保証書に販売店の印やお買い上げ日の記入がない場合は、保証期間中でも修理が有償になることがあります。
●保証書は、本書と共に大切に保管してください。

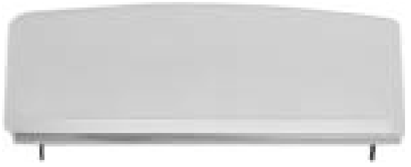
■ 修理について
●万一異常があるときはすぐに電源スイッチを切り、ACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いて、購入店または弊社へご連絡ください。

1）付属品（お確かめください）

● AC（エーシー）アダプター〈PS-125D〉

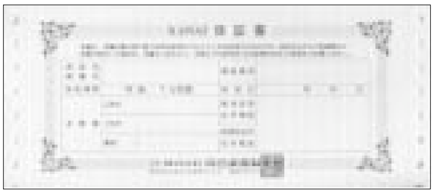
● フットペダル〈F-1r〉

● 譜面立て

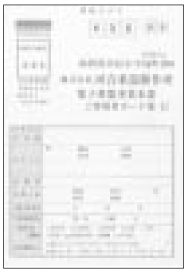


● 取扱説明書（本書）

● 保証書



● ご愛用者カード



● アフターサービスと
音楽教室のご案内

● Pfun（ピーファン）ピアノ曲集

● 楽譜集のご案内

● 楽譜集の払込取扱票

2）es1の特長

本格的なピアノタッチを実現

演奏性を重視した「非対称音域別ハンマーウェイト」を採用することで、手応えが低音側から高音側まで滑らかに変化する演奏性を実現。ばねを一切使わない鍵盤機構で、グランドピアノのタッチ感をリアルに再現する「アドバンスト・ハンマー・アクションⅢ」を搭載しています。

カワイフルコンサートピアノEXの響板や弦の響きを忠実に再現

世界の舞台で認められたフルコンサートピアノEXをサンプリングしたリアルで立体的な音を、いつでも気軽に楽しめます。

厳選された27種類の多彩な音色

グランドピアノ音色をはじめ、オルガンやストリングス、ハープシコードなど21種類の標準音色と、6種類のモアピアノ音色を内蔵しており、曲想に合わせて様々な音色をお楽しみいただけます。
モアピアノ音色は、ピアノ音色と他の音色を組み合わせた新しい音色です。

ハイクオリティなステレオ方式のサウンド

場所を選ばないコンパクトなボディに、ハイクオリティなスピーカーを左右にバランス良く配置しました。臨場感あふれるステレオ方式のサウンドをお楽しみいただけます。

音の世界が広がる多彩なエフェクト

音に心地よい拡がりを与えるコーラス、深みのある美しい響きを作り出す3種類のリバーブ、シチュエーションに合わせて音質を選べる6種類のイコライザーが音楽の可能性をより高めます。

本格的なデュオ演奏を楽しめるPfun（ピーファン）ピアノ曲

ポップスなどのピアノアレンジに加え、ベースパートとのデュオ演奏をお楽しみいただけます。また、ピアノパートをミュート（消音）して合奏することもできます。
さらに、別売の「Pfunピアノ曲集」の曲データをes1に入れて、Pfunピアノ曲としてお楽しみいただけます。

ヘッドホン演奏も大切に考えた充実の仕様

ヘッドホンを使用したときに感じる耳への圧迫感を、「ヘッドホンエフェクト」機能が解消します。ヘッドホン使用時でも快適に演奏を楽しむことができます。

カワイ独自のコンサートマジック機能

1つの鍵盤を押していくだけで曲を演奏できるユニークな機能です。初心者の方や小さなお子様まで気軽に音楽をお楽しみいただけます。押すタイミングや強弱により音楽的な表現も可能です。
コンサートマジックの曲は、デモ演奏として鑑賞することもできます。

正確なテンポを刻むメトロノーム

5種類のメトロノームを内蔵しています。曲に合った拍子を選んでレッスンすることができます。

伴奏やキーの上げ下げに便利なトランスポーズ機能

弾き方を変えずに、歌いやすいキーに移調したり、他の楽器とのアンサンブルでキーを合わせたりすることが、簡単な操作で行えます。
音程を微調整できるチューニング機能も内蔵しています。

演奏を録音してチェックできるレコーダー

演奏を2パートに分けて、3曲まで録音することができます。左手と右手のパートをそれぞれ別に録音したり、演奏を重ねて一人で連弾を楽しんだり使い方は様々です。

音楽の可能性を広げるMIDI（ミディ）とUSBインターフェース

他のMIDI機器と接続して演奏情報やパネル情報をやりとりできるMIDI端子を装備しています。
また、パソコンとの接続を考慮しUSBインターフェースも装備しています。

本製品で使用しているUSB-MIDI変換ボード「TID10000934」は、USBロゴ認証を取得しております。USBロゴは、USB-IF(USB Implementers Forum Inc.)による、認証テストに合格した製品のみが表示を許されるものです。

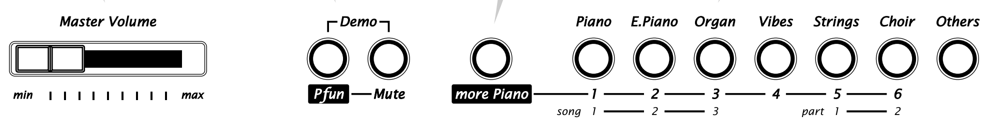
3）各部の名称と働き

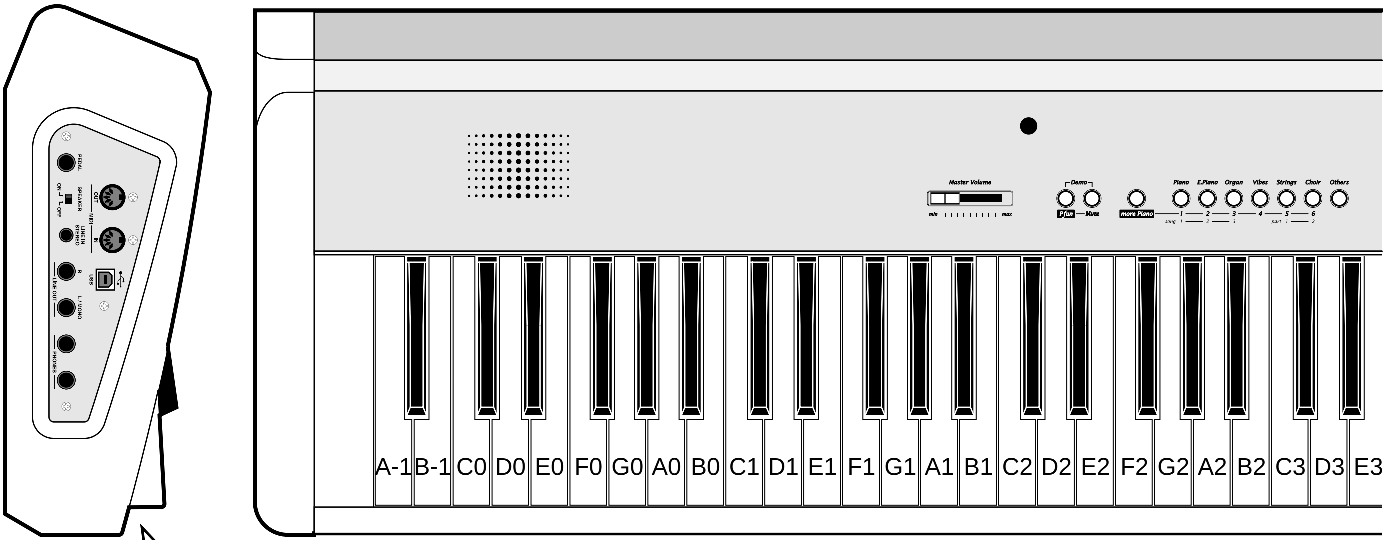
Master Volume
内蔵スピーカーやヘッドフォンの音量を調節できます。max側にするほど音が大きくなります。
（→9ページ）

Demoボタン
音色デモ曲やPfunピアノ曲を再生することができます。
（→15、16ページ）
コンサートマジックでも使います。
（→20ページ）

morePianoボタン
モアピアノ音色を選ぶことができます。
（→11ページ）

音色ボタン
標準音色やモアピアノ音色を選ぶことができます。
2つ同時に押すとデュアル音色になります。
（→10ページ）



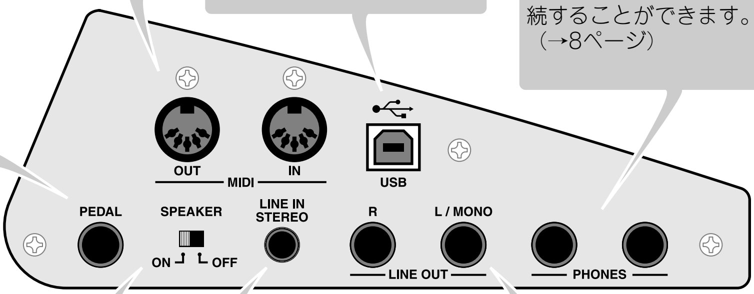


MIDI端子
他のMIDI機器と接続して、演奏情報などをやりとりすることができます。
（→36ページ）

USB端子
市販のUSBケーブルでコンピュータと接続して、MIDIデータをやりとりすることができます。
（→44ページ）

PHONES端子
別売のヘッドホン（SH-2またはSH-5）を2つまで接続することができます。
（→8ページ）

PEDAL端子
付属や別売のペダルを接続して、ダンパーペダル効果を得ることができます。（→8ページ）



SPEAKERスイッチ
OFF側にすると、スピーカーの音を消すことができます。
（→9ページ）

LINE IN STEREO端子
他の電子楽器やオーディオ機器を接続して、es1のスピーカーで鳴らすことができます。
（→44ページ）

LINE OUT端子
オーディオ機器に接続して録音したり、アンプ内蔵スピーカーなどに接続して大きな音で鳴らすことができます。（→44ページ）

ディスプレイ
さまざまな設定値が表示されます。

Value/Dual Balanceボタン
設定値を上下させます。

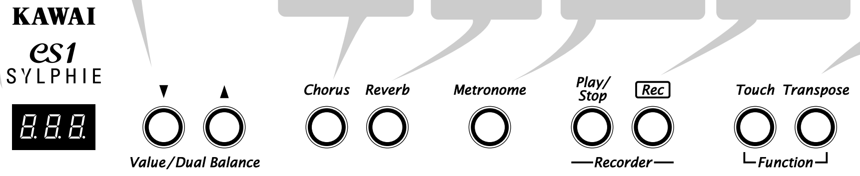
Chorusボタン
音に拡がりを与えることができます。（→13ページ）

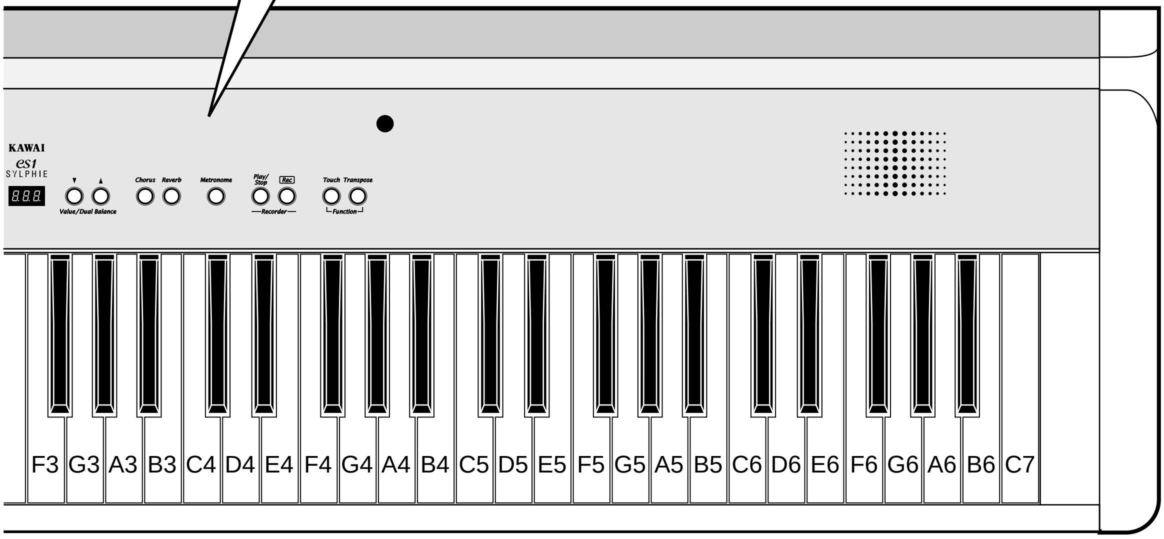
Reverbボタン
音に残響を加えることができます。（→13ページ）

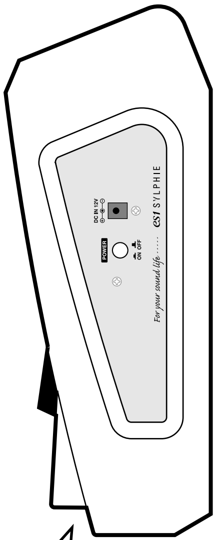
Metronomeボタン
メトロノームの音を鳴らすことができます。（→25ページ）

Recorderボタン
演奏を録音/再生することができます。（→27ページ）

Functionボタン
2つ同時に押すと、設定モードになります。（→32ページ）タッチカーブの切り替え（→23ページ）や、移調（→24ページ）するときにも使います。

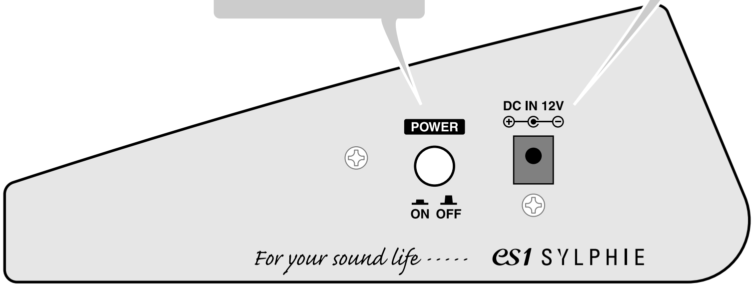






POWERスイッチ
電源スイッチです。（→9ページ）

DC IN 12V端子
付属のACアダプターPS-125Dを接続します。（→9ページ）

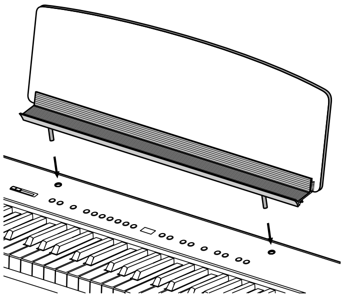


4）演奏前の準備

譜面立てを立てる

es1本体上部の穴に差し込みます。

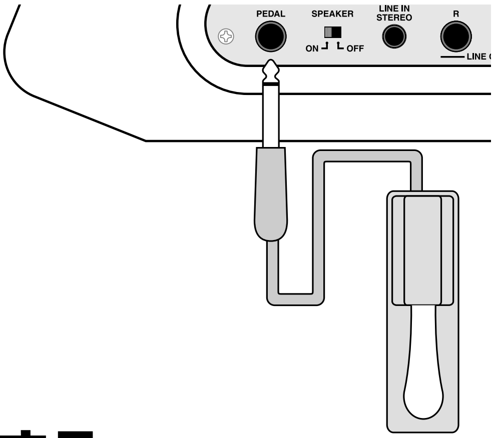
- ・本体に差し込む時、傷がつかないよう注意して下さい。
- ・無理やり譜面立てを引っ張ったり、後ろに押し倒さないで下さい。



フットペダルを接続する

付属のフットペダルF-1rを、PEDAL端子に接続します。
付属のフットペダルはダンパーペダルです。

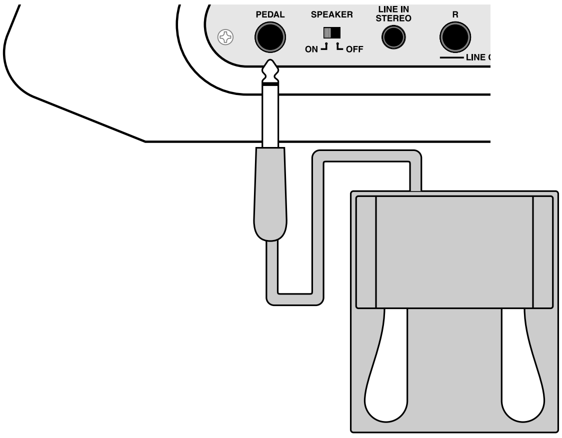
ダンパーペダルとは
鍵盤から指を離しても、ダンパーペダルを踏んでいる間は弾いた音が長く響きます。



別売のフットペダルを接続する

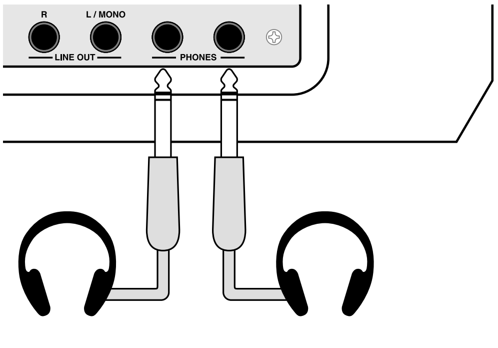
別売のフットペダルF-2rをPEDAL端子に接続します。
F-2rは、ダンパーペダルとソフトペダルの2本ペダルです

ソフトペダルとは
ソフトペダルを踏んだあとに弾いた音の音量がわずかに下がると同時に、音の響きが柔らかくなります。



別売のヘッドホンを接続する

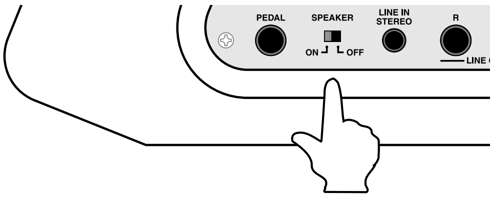
別売のヘッドホン（SH-2またはSH-5）をPHONES端子に接続します。
ヘッドホンは2本まで接続できます。



スピーカー出力を入/切する

SPEAKER(スピーカー)スイッチを切り替えます。
ON(オン)側にするとes1のスピーカーから音が出ます。

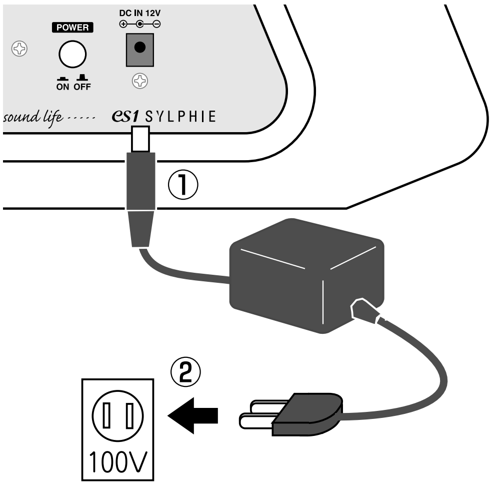
ヘッドホンを接続した場合は、SPEAKERスイッチのON/OFFにかかわらずes1のスピーカーから音は出ません。



音を鳴らす

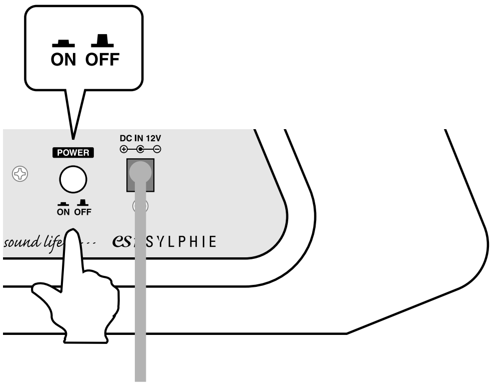
1 AC(エーシー)アダプターの接続

付属のACアダプターPS-125Dをes1本体のDC IN 12V(ディーシー イン 12ボルト)端子に差し込み、次にコンセント(AC100 V)に差し込みます。



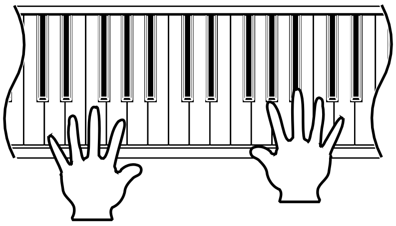
2 電源を入れる

POWER(パワー)スイッチを押します。
音色ボタンが点灯します。



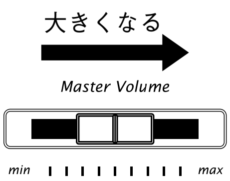
3 音を出す

Master Volume(マスター ボリューム)を中央付近にセットし、鍵盤を弾いてみましょう。
音が出ます。



音量を調節する

Master Volumeを左右に動かしてお好みの音量にします。



1）音色を選ぶ

ピアノ音色をはじめとした21種類の標準音色と6種類のモアピアノ音色があります。
モアピアノ音色は、ピアノ音色と他の音色を組み合わせた新しい音色です。

標準音色を選ぶ

■ 12種類の音色の中から選ぶ場合

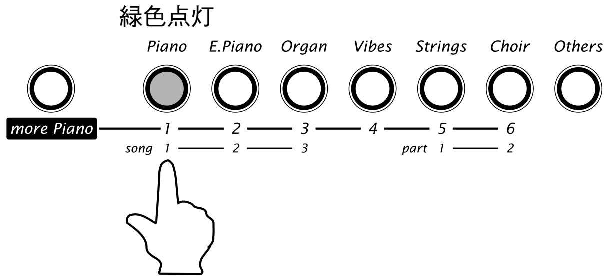
6つの音色ボタンに、表音色と裏音色が各2種類ずつ割り当てられています。

音色ボタン	表音色(赤色点灯)	裏音色(緑色点灯)
Piano	コンサート グランド	モダン ピアノ
E.Piano	クラシック エレクトリック ピアノ	モダン エレクトリック ピアノ
Organ	ジャズ オルガン	チャーチ オルガン
Vibes	ビブラホン	ハープシコード
Strings	ストリングス	ビューティフル ストリングス
Choir	クワイヤー	ニューエイジ

音色ボタンを押す

音色ボタンを押して表音色を選ぶとボタンが赤色に点灯し、もう1回押して裏音色を選ぶとボタンが緑色に点灯します。

例: モダン ピアノを選ぶ

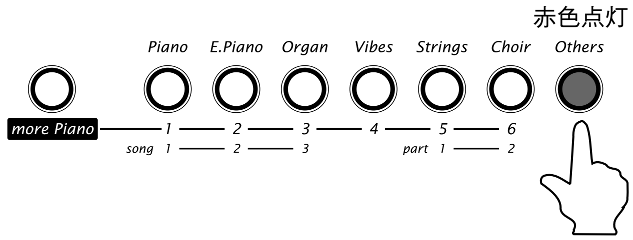


■ その他の9音色の中から選ぶ場合

No.	音色
1	メロー グランド
2	ロック ピアノ
3	60's エレクトリック ピアノ
4	レジェンド エレクトリック ピアノ
5	アコースティック ベース
6	フィンガー ベース
7	ピック ベース
8	フレットレス ベース
9	シンセ ベース

1 Others(アザーズ)ボタンを押す

Othersボタンが赤色に点灯します。



2 音色を選ぶ

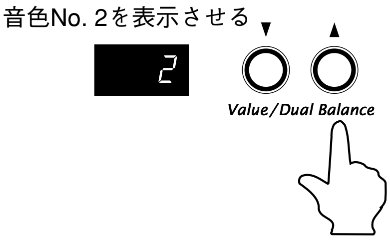
Value/Dual Balance（バリュー/デュアル バランス）ボタンを押して選びます。

選んだ1〜9いずれかの番号が、ディスプレイに表示されます。

または、Others（アザーズ）ボタンを繰り返し押すことによって音色を変えることもできます。

注）メトロノーム（25ページ参照）など、他の機能がディスプレイに表示されているときに音色を変える場合は、Othersボタンを繰り返し押してください。

例: 音色No. 2のロック ピアノを選ぶ



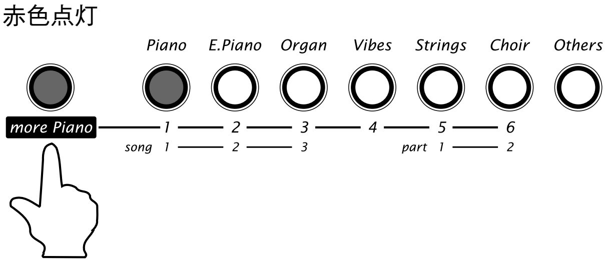
モアピアノ音色を選ぶ

■ 6種類のモアピアノ音色の中から選ぶ

音色ボタン	音色名称	特徴	お薦めの曲
Piano	ピアノ ストリングス 1	ピアノに、やわらかいストリングスを重ねた暖かい音色	バラードなどのしっとりした曲に
E.Piano	ピアノ ストリングス 2	ピアノに、シンセ ストリングスとギターを重ねた深みのある音色。	少しシリアスな曲に
Organ	ピアノ ボイス	ピアノに、ハスキー ボイスを重ねた幻想的な音色	癒し系の曲に
Vibes	ピアノ ブラス	ピアノに、シンセ ブラスを重ねた厚みのある音色	80年代のロック バラードに
Strings	エレピ ストリングス	エレクトリック ピアノに、やわらかいストリングスを重ねた拡がりのある音色	バラードにも、ダンス ミュージックにも
Choir	エレピ ウィンド	エレクトリック ピアノに、ウィンドシンセを重ねた歯切れのいい音色	ちょっとメルヘンチックな曲に

1 more Piano（モア ピアノ）ボタンを押す

more Pianoボタンが赤色に点灯します。

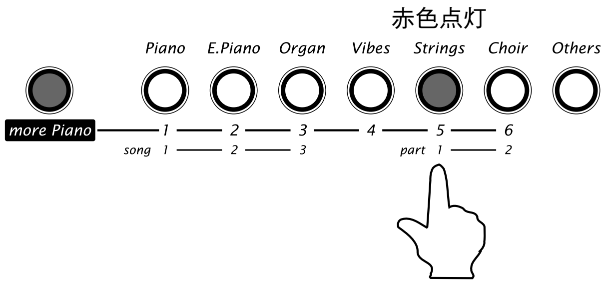


2 音色を選ぶ

6つの音色ボタンのいずれかを押して選びます。

音色ボタンが赤色に点灯します。

例: エレピ ストリングスを選ぶ



2）2つの音色を重ねる［デュアル］

21種類の標準音色の中から2つの音色を重ね合わせて、厚みのある音で演奏することができます。
・モアピアノ音色を組み合わせることはできません。
・同一ボタンの音色を組み合わせることはできません。

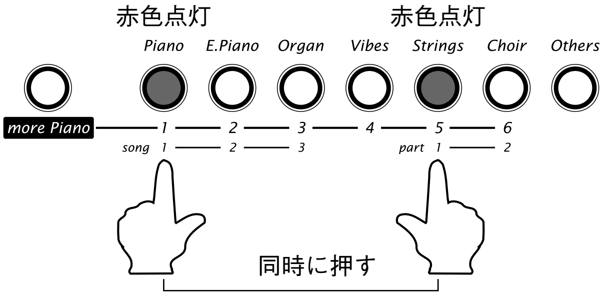
■ 次の2通り（いずれか）の方法で音色を組み合わせることができます。

・各ボタンにあらかじめ音色を割り当てておき（裏音色やOthers（アザーズ）ボタンの音色を選ぶこともできます）、次に2つのボタンを同時に押します。
・組み合わせたい音色のうちの片方をまず選び、その音色ボタンを押しながら、もう一方の音色ボタンを何回か繰り返し押します。

例：2つのボタンを同時に押す

【コンサートグランド（Piano（ピアノ）ボタンの表音色）とストリングス（ストリングス）（Stringsボタンの表音色）を組み合わせる】

PianoボタンとStringsボタンを同時に押します。
両方のボタンが赤色に点灯します。



デュアルの音量バランスを調節する

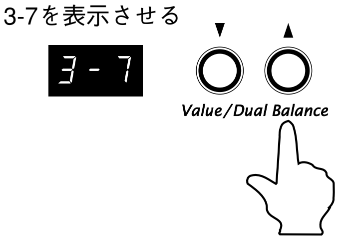
選んだ2つの音色の音量バランスを調節することができます。

音量バランスを設定する

Value/Dual Balance（バリュー / デュアル バランス）ボタンを押して指定します。
音量バランスが、ディスプレイに表示されます。

・電源を入れた時は「5-5」（左右の音色の音量が等しい）です。

例：3-7（コンサートグランドの音量3に対してストリングスの音量7）にする



3）効果を加える

効果（エフェクト）を加えて音の表情を変えることができます。
コーラス、リバーブ、イコライザーの3つのエフェクトがあります。

音に拡がりを与える[コーラス]

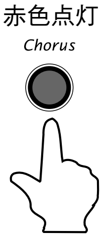
コーラスは、ピッチに揺らぎを持つ音を元の音に加えることにより音に拡がりを与える効果です。

Chorus（コーラス）ボタンを押す

Chorusボタンが赤色に点灯し、コーラスがオンになります。

もう1回押すと、コーラスがオフになります。

・メモリー･バックアップ機能（35ページ参照）を使って、コーラスのオン/オフを音色ごとに記憶させておくことができます。



音に残響を加える[リバーブ]

リバーブは、音に残響を加えて臨場感を与える効果です。3種類の中から好みのリバーブを選ぶことができます。

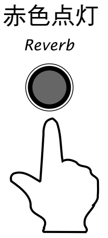
種　類	ディスプレイ表示	特徴	残響音
ルーム	roo	部屋で弾いているような響きです。	短い
ステージ	StG	ステージで弾いているような響きです。	↕
ホール	HAL	ホールで弾いているような響きです。	長い

1 リバーブをオンにする

Reverb（リバーブ）ボタンを押します。

Reverbボタンが赤色に点灯し、リバーブがオンになります。

・再度Reverbボタンを押すと、Reverbボタンが消灯してリバーブが解除されます。



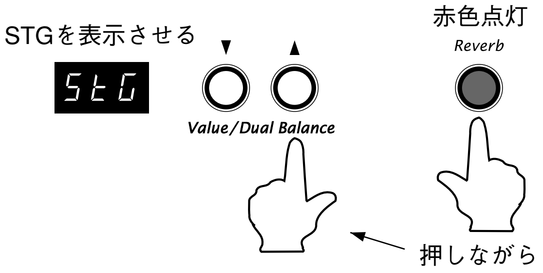
2 リバーブの種類を選ぶ

Reverbボタンを押しながら、
Value/Dual Balance（バリュー/デュアル バランス）ボタンを押して選びます。

選んだリバーブの種類が、ディスプレイに表示されます。

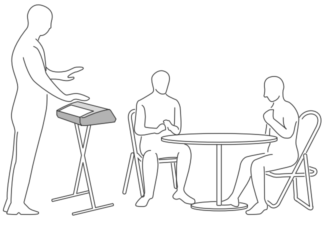
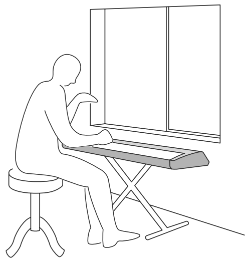
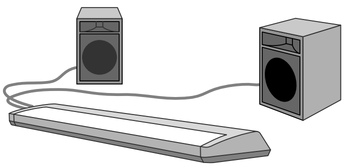
・メモリー･バックアップ機能（35ページ参照）を使って、リバーブのオン/オフと種類を音色ごとに記憶させておくことができます。

例: ステージを選ぶ



音質を切り替える[イコライザー]

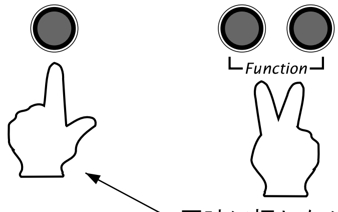
イコライザーは、音質を変える効果です。3種類の中から好みの音質を選ぶことができます。
ヘッドホンの接続も考慮して選択してください。

種　類	モード1	モード2	モード3
ディスプレイ表示	E9 ←交互→ 1	E9 ←交互→ 2	E9 ←交互→ 3
ヘッドホンを接続しない場合	es1を壁から離れた場所に設置するときや、本機の後ろで聴く人がいるときにお薦めします。	壁の近くに設置するときにお薦めします。	LINE OUT(ライン アウト)端子に外部スピーカーやPAを接続して、外部機器側で鳴らすときにお薦めします。
ヘッドホンを接続する場合	ヘッドホンをお使いのときにお薦めします。音の圧迫感を軽減するヘッドホンエフェクトがかかります。	ヘッドホンの高音が足りないときにお薦めします。ヘッドホンエフェクトに加え、高音強調効果がかかります。	ヘッドホンエフェクトがかかりません

1 イコライザーの設定準備

Function(ファンクション)ボタン(Touch(タッチ)ボタンとTranspose(トランスポーズ)ボタン)を押しながら、Reverb(リバーブ)ボタンを押します。

FunctionボタンとReverbボタンが赤色に点灯し、イコライザーの設定が可能になります。



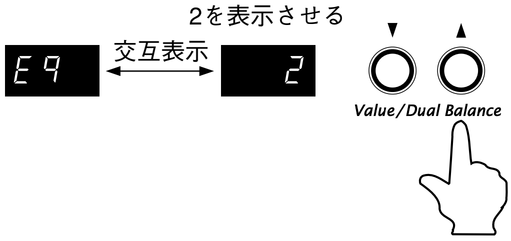
2 イコライザーの種類を選ぶ

Value/Dual Balance(バリュー/デュアル バランス)ボタンを押して選びます。

選んだイコライザーの種類が、ディスプレイに表示されます。

Functionボタン、音色ボタンのいずれかを押すと、設定状態から抜けます。

例: モード2を選ぶ



- 工場出荷時の設定はモード1です。
- メモリー・バックアップ機能(35ページ参照)を使って、設定を記憶させておくことができます。
- イコライザーの設定は、全音色に共通です。

4）音色デモ曲を聴く

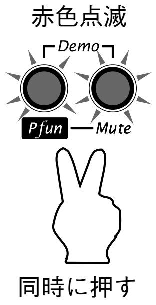
21種類の標準音色のうち、代表的な12種類の音色にはデモ曲が用意されています。これらは、各音色の特徴を生かした演奏になっていますので、音色を選ぶ際の参考にしたり、鑑賞用としてお楽しみください。

音色ボタン	音色名	曲名	作曲者名
Piano	コンサート グランド	アラベスク第一番	ドビュッシー
	モダン ピアノ	オリジナル	
E.Piano	クラシック エレクトリック ピアノ	オリジナル	
	モダン エレクトリック ピアノ	オリジナル	
Organ	ジャズ オルガン	オリジナル	
	チャーチ オルガン	トッカータ	ジグー
Vibes	ビブラホン	オリジナル	
	ハープシコード	フランス組曲第6番	バッハ
Strings	ストリングス	四季“春”	ヴィヴァルディ
	ビューティフル ストリングス	オリジナル	
Choir	クワイヤー	オリジナル	
	ニューエイジ	オリジナル	

1 音色デモ曲の再生

デモ　ピーファン　ミュート
Demoボタン（Pfunボタンと Muteボタン）を2つ同時に押します。

Demoボタンが赤色に点滅し、再生が始まります。



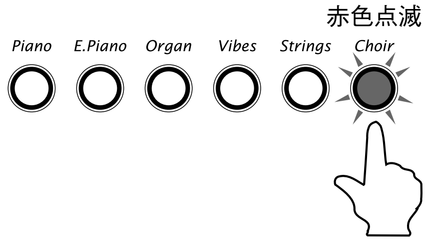
2 曲を選ぶ

12種類の標準音色の中から選びます。

選んだボタンが点滅して、デモ曲が再生されます。

・押した音色ボタンに含まれる2曲が再生された後、他の音色のデモ曲が順不同に再生されます。
・再生中の音色ボタンを押すと、再生中の曲が終了して次のデモ曲に移ります。

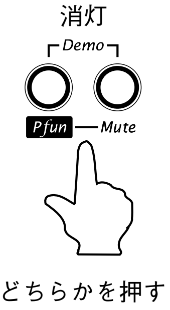
例: クワイヤーの曲を選ぶ



3 音色デモ曲の再生停止

Demoボタンのいずれかを押します。

Demoボタンが消灯し、音色デモ曲が止まります。



5) Pfun（ピーファン）ピアノ曲

Pfunピアノ曲は、“ポップスなど、お客様が普段耳にされているお好みの曲を、気軽に、しかも存分に楽しんで欲しい”、そんな思いから生まれた全く新しい感覚のピアノ･アレンジ曲です。具体的には次のような特長があります。

●趣向を凝らした独自のピアノ･アレンジ

Pfunピアノ曲は、ピアノで楽しめるように編曲されていますので、原曲とはひと味違ったピアノ演奏の醍醐味を味わっていただけます。まずは楽譜を見ながら自分のテンポで自由に演奏してみてください。“ピアノ発表会やコンサートなどで格好良くポップスを演奏したいのだけれど、あまりいいピアノの楽譜が見つからなくて”という方にも十分にご活用していただけます。

●ピアノが引き立つパート編成「ピアノ･デュオ」

Pfunピアノ曲では、独自のピアノ･アレンジに加えて、ベースの伴奏が入っています。原曲のような多くのパートではなく最小の編成「ピアノ･デュオ」にすることで、ピアノパートがクローズアップされるので、伴奏に合わせたピアノ演奏も存分に堪能していただけます。

●ピアノ演奏を盛り上げるベース･フレーズ

生き生きとしたベース･フレーズにより、まるで自分のすぐ近くでベース演奏をしてくれる仲間を得たような感覚でピアノ演奏をお楽しみいただけます。

これに加えてes1では、パートのミュート機能や、曲中のポイントを指定することで練習したい部分までジャンプして再生する機能を搭載していますので、簡単な操作でピアノパートの練習やセッションを楽しんでいただけます。なお、es1には5曲のPfunピアノ曲を記憶するメモリーがあり、あらかじめ5曲が内蔵されています。また、この5曲に限らず新曲と入れ替えてお楽しみいただくこともできます。

・コンピュータを使って、別売の「Pfunピアノ曲集（曲データ付き楽譜）」に収録されている曲を、es1本体に入れ替えることができます。詳しくは、同梱の「楽譜集のご案内」をご覧ください。

No.	曲名	アーティスト	作曲者
1	SEASONS	浜崎あゆみ	D･A･I
2	CLEA	小野リサ	Lisa Ono
3	LOVE LOVE LOVE	Dreams Come True	中村正人
4	ロビンソン	スピッツ	草野正宗
5	真夏の果実	サザンオールスターズ	桑田佳祐

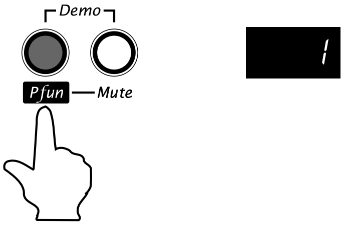
Pfunピアノ曲を聴く

1 Pfunピアノ曲の再生開始

Pfunボタンを押します。

Pfunボタンが赤色に点灯し、1番目の曲がスタートします。

赤色点灯

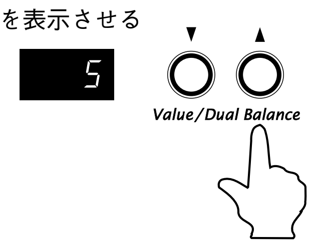


2 曲を選ぶ

Value/Dual Balance（バリュー/デュアル バランス）ボタンを押して選びます。

選んだ曲の番号がディスプレイに表示され、再生が始まります。

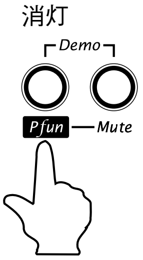
例: 5番目の曲を選ぶ



3 再生の停止

Pfun（ピーファン）ボタンを押します。

Pfunボタンが消灯し、再生が止まります。



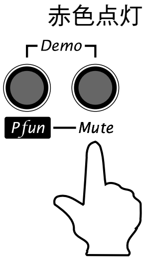
ミュートして合奏する

ベースに合わせて演奏したり、ベースをミュートしてピアノパートの演奏だけを聴くことができます。

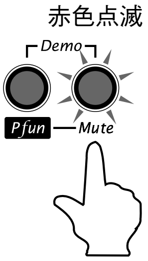
ピアノパートをミュートする場合

Mute（ミュート）ボタンを押します。

Muteボタンが赤色に点灯して、ピアノパートがミュートされます。ベースとメトロノーム（ドラムのハイハット音）だけが再生されますので、それをバックにピアノパートを演奏できます。



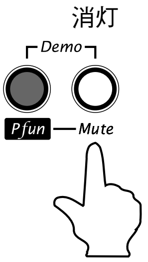
- メトロノームの音量調節（26ページ参照）をすることもできます。
- 同梱の「Pfunピアノ曲集」は、es1に内蔵のPfunピアノ曲に対応していますので、こちらを参考に演奏をお楽しみいただけます。



ベースをミュートする場合

もう一度Muteボタンを押します。

Muteボタンが赤色に点滅して、ベースがミュートされます。ピアノパートだけが再生されますので、同梱の「Pfunピアノ曲集」により、ピアノパートの演奏が確認できます。



ミュートを取り消す場合

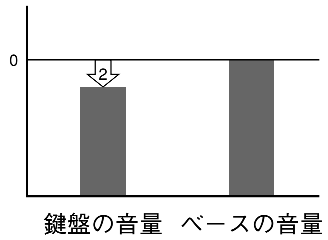
再度Muteボタンを押します。

Muteボタンが消灯して、ミュートが取り消されます。

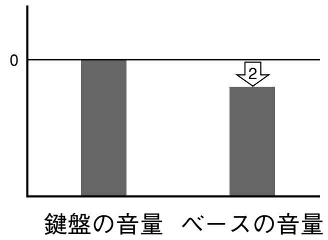
鍵盤と伴奏の音量バランスを調節する

Pfun(ピーファン)ピアノ曲のベースパートの音量を調節することができます。
鍵盤の音量に対するベースの音量バランスを相対的に-5〜+5の範囲で調節します。

例: -2を選ぶ



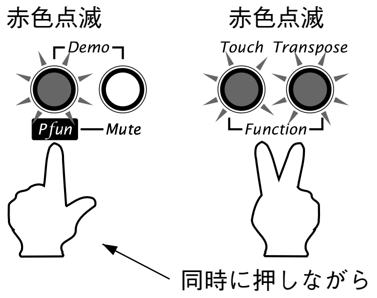
例: +2を選ぶ



1 音量バランスの設定準備

Function(ファンクション)ボタン（Touch(タッチ)ボタンとTranspose(トランスポーズ)ボタン）を押しながら、Pfunボタンを押します。

FunctionボタンとPfunボタンが赤色に点滅し、現在の設定がディスプレイに表示されます。



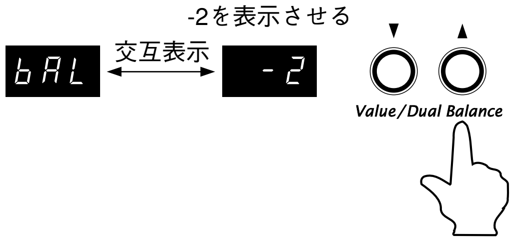
2 音量バランスを設定する

Value/Dual Balance(バリュー/デュアル バランス)ボタンを押して設定します。

-5〜+5の範囲で設定できます。

Functionボタン、Pfunボタンのいずれかを押すと、設定状態から抜けます。

例: -2を選ぶ



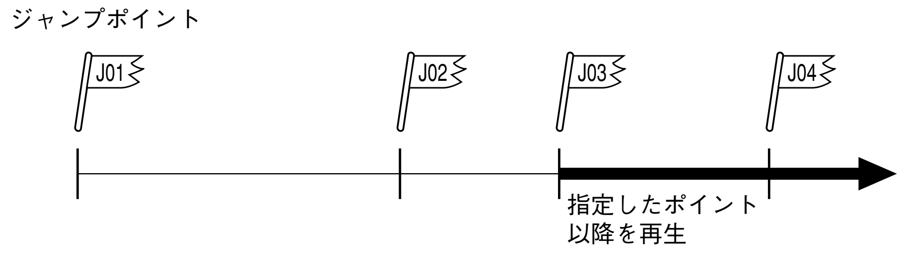
- 工場出荷時の設定値は0です。
- メモリー･バックアップ機能（35ページ参照）を使って、設定値を記憶させておくことができます。

指定したポイントから再生する

Pfun(ピーファン)ピアノ曲には、1曲をいくつかの小節で区切るジャンプポイントがあらかじめ設定されています。ジャンプポイントを指定して再生することで、繰り返し聴いたり、練習することができます。

・ジャンプポイントの数は曲によって異なります。

例: ジャンプポイントJ03を選んだ場合



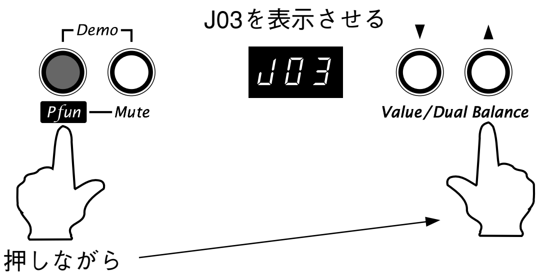
ジャンプポイントを指定する

Pfunボタンを押しながら、Value/Dual Balance(バリュー / デュアル バランス)ボタンを押して指定します。

指定したポイントにジャンプし、再生されます。

・再生中にPfunボタンをしばらく押して、ジャンプポイントの設定を表示した後に離すと、指定したポイントに再度ジャンプし、そこから再生することが可能です。
・練習したい曲を繰り返し再生する場合は、ジャンプポイント1を指定します。
・指定したジャンプポイントを解除する場合は、OFFを選択するか、選曲しなおしてください。

例: J03を選ぶ



テンポを変える

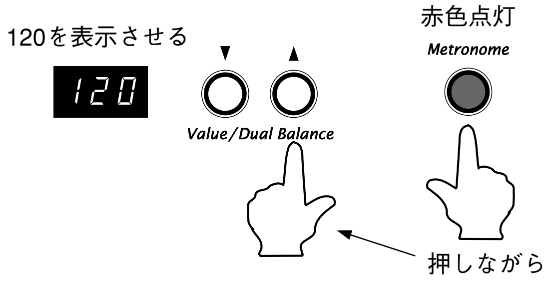
Pfunピアノ曲のテンポを変えることができます。

テンポを変える

Pfunピアノ曲再生中に、Metronome(メトロノーム)ボタンを押しながら、Value/Dual Balance(バリュー / デュアル バランス)ボタンを押して指定します。

指定したテンポが ディスプレイに表示され、テンポが変わります。

例: 120にする



6) コンサートマジック

コンサートマジックとは、初心者や小さなお子様でも気軽に音楽を楽しんでいただけるように、指一本で本格的なピアノ演奏を可能にする画期的な機能です。指揮者になった気分でピアノの鍵盤を押してみましょう。演奏のテンポや強弱は、鍵盤を押すタイミングや強さで自由自在に変えることができるので、簡単でありながら音楽的な表現を可能にする、とても楽しい機能です。

・コンサートマジック用の曲は88曲内蔵されており、次ページの図のように各鍵盤に1曲ずつ割り当てられています。
・es1に内蔵されているコンサートマジック曲全曲を掲載した「コンサートマジック曲集Vol. 2」を、別売品としてご用意しております。詳しくは同梱の「楽譜集のご案内」をご覧いただき、お申し込みは同梱の「払込取扱表」をご利用ください。コンサートマジックの魅力的な世界が一層拡がります。

◇ コンサートマジック曲目

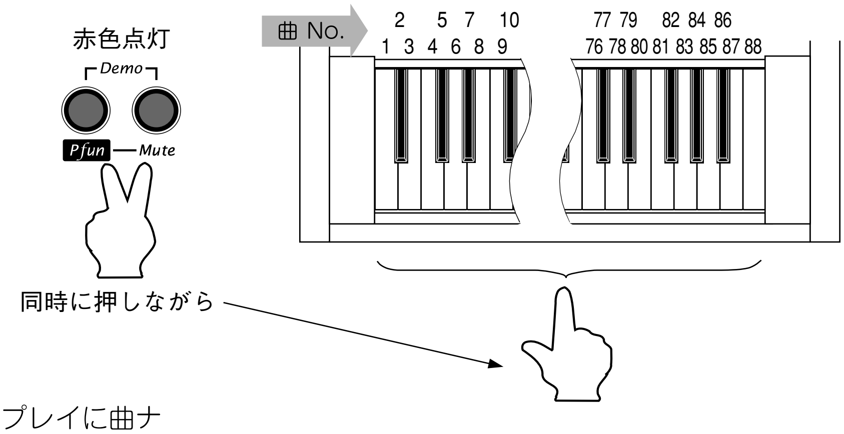
【カテゴリー】	【曲名】	【作曲者】
子供の曲（27曲）		
1	きらきら星	フランス民謡
2	ロンドン橋	イギリス民謡
3	ふるさと	岡野貞一
4	山の音楽家	ドイツ民謡
5	もみじ	岡野貞一
6	ゆき	文部省唱歌
7	七つの子	本居長世
8	10人のインディアン	アメリカ民謡
9	さくらさくら	日本古謡
10	わらの中の七面鳥	アメリカ民謡
11	※ひらいたひらいた	わらべうた
12	※かくれんぼ	下総皖一
13	※虫のこえ	文部省唱歌
14	アイアイ	宇野誠一郎
15	※うみ	井上武士
16	おもちゃのチャチャチャ	越部信義
17	※かたつむり	文部省唱歌
18	※春がきた	岡野貞一
19	もりのくまさん	アメリカ民謡
20	※夕やけこやけ	草川信
21	ドレミの歌	O.ハマースタイン、R. ロジャース
22	北風こぞうの寒太郎	福田和禾子
23	ぶんぶんぶん	ボヘミア民謡
24	ゆかいな牧場	アメリカ民謡
25	パフ	P.ヤーロウ、L.リプトン
26	河はよんでいる	G.ベアール
27	こいぬのマーチ	外国曲
ディズニー/アニメ/スクリーン（13曲）		
28	狼なんか怖くない	F.チャーチル
29	チムチムチェリー	シャーマン兄弟
30	ハイホー	F.チャーチル
31	ビビディバビディブー	マークデビッド他2名
32	星に願いを	L.ハーライン
33	小さな世界	シャーマン兄弟
34	ミッキーマウスマーチ	J.ドッド
35	さんぽ	久石譲
36	エーデルワイス	O.ハマースタイン、R. ロジャース
37	チキチキバンバン	シャーマン兄弟
38	虹の彼方に	H.アーレン
39	となりのトトロ	久石譲
40	サザエさん	筒美京平
アメリカのクラシック音楽（9曲）		
41	聖者の行進	アメリカ民謡
42	おじいさんの古時計	アメリカ民謡
43	リパブリック賛歌	アメリカ民謡
44	アルプス一万尺	アメリカ民謡
45	ロンドンデリーの歌	アイルランド民謡
46	ケンタッキーの我が家	フォスター
47	故郷の人々	フォスター
48	草競馬	フォスター
49	線路は続くよどこまでも	アメリカ民謡

【カテゴリー】	【曲名】	【作曲者】
クラシック（31曲）		
50	喜びの歌	ベートーベン
51	ウィリアムテル序曲	ロッシーニ
52	天国と地獄	オッフェンバック
53	新世界より家路	ドボルザーク
54	エンターティナー	ジョプリン
55	メヌエット　ト長調	バッハ
56	花のワルツ	チャイコフスキー
57	スケーターズ ワルツ	ワルトトイフェル
58	美しく青きドナウ	ヨハン･シュトラウス
59	闘牛士の歌	ビゼー
60	ピチカート ポルカ	ヨハン･シュトラウス
61	ブラームスの子守歌	ブラームス
62	ワシントンポストマーチ	J.P.スーザ
63	アメリカン パトロール	ミーチャム
64	眠りの森の美女	チャイコフスキー
65	ガボット	ゴセック
66	軍隊行進曲	シューベルト
67	ジムノペディ　1番	サティ
68	プレリュード　イ長調	ショパン
69	皇帝円舞曲	ヨハン･シュトラウス
70	メープル リーフ ラグ	ジョプリン
71	双頭のわしの旗のもとに	ワグナー
72	びっくりシンフォニー	ハイドン
73	凱旋行進曲	ヴェルディ
74	エリーゼのために	ベートーベン
75	アヴェマリア	シューベルト
76	ハバネラ	ビゼー
77	ジプシーの歌	ビゼー
78	未完成交響曲	シューベルト
79	結婚行進曲	メンデルスゾーン
80	婚礼の合唱	ワーグナー
クリスマスの曲（4曲）		
81	おめでとうクリスマス	イギリス民謡
82	ジングルベル	ピアポント
83	もろ人こぞりて	讃美歌
84	きよしこの夜	グルーバー
世界の民謡（4曲）		
85	フニクリフニクラ	デンツァ
86	こぎつね	ドイツ民謡
87	アニーローリー	スコットランド民謡
88	サンタルチア	ナポリ民謡

表中の“※”は文部科学省の学習指導要領に対応した曲です。

曲を選ぶ

Demo(デモ)ボタン（Pfun(ピーファン)ボタンとMute(ミュート)ボタン）を2つ同時に押しながら、鍵盤を押して曲を選びます。



Demoボタンが赤色に点灯してディスプレイに曲ナンバーが表示され、コンサートマジック演奏の準備ができたことを示します。

演奏する

1 演奏の開始

前記の方法で曲を選んだ後、鍵盤を弾きます。

弾く鍵盤はどの鍵盤でもかまいません。好みのテンポで鍵盤を弾くと、そのタイミングで曲が進んでいきます。

・好みの音色を選んで演奏できます（10ページ参照）。

2 演奏の終了

Demoボタンのいずれかを押します。

Demoボタンが消灯し、コンサートマジック演奏が終了します。

聴く

コンサートマジックの曲は、デモ曲として通常の再生を行うこともできます。どんな曲なのかまず聴いてみたいときに便利です。

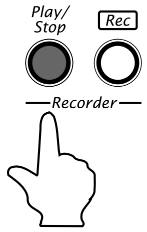
1 再生の開始

前ページの方法で曲を選んだ後、
プレイ/ストップ
Play/Stopボタンを押します。

Play/Stopボタンが赤色に点灯し、再生が始まります。

・選択した曲が終わると、次のNo.の曲が続けて再生されます。No. 88の曲まで再生された後は、No.1から順番に繰り返し再生されます。再生を止める場合は、Play/Stopボタンを押します。
バリュー / デュアル バランス
・Value/Dual Balanceボタンで曲目を変更することができます。
メトロノーム
・Metronomeボタンを押しながら、Valueボタンを押してテンポを調節できます。

赤色点灯

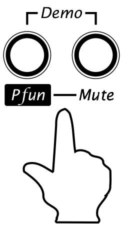


2 コンサートマジックの終了

デモ
Demoボタンのいずれかを押します。

Demoボタンが消灯し、コンサートマジックが終了して通常の状態に戻ります。

消灯

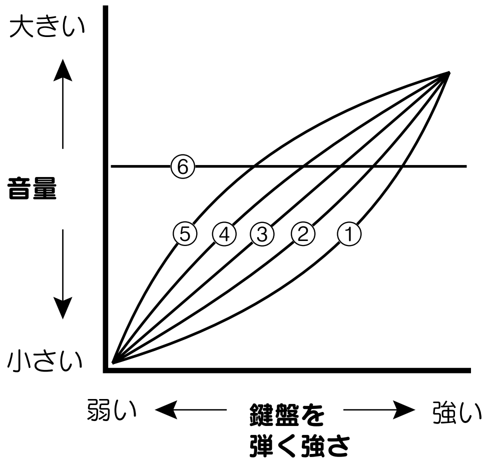


いずれかを押す

7）タッチカーブを切り替える

ピアノでは、鍵盤を弾く力をだんだん強くしていくと、音量もだんだん大きくなっていきます。タッチカーブとは、鍵盤を弾く強さと音量の関係を表したカーブです。es1では6種類のタッチカーブを装備しており、好みに合わせたタッチカーブに切り替えることができます。

種　類	ディスプレイ表示	特徴
①ヘビー2	HE2	指の力が強い人や練習向きのタッチカーブです。
②ヘビー1	HE 1	強いタッチで弾かないと大きな音が出ません。
③ノーマル	―	アコースティックピアノと同程度のタッチで音量が変化します。
④ライト1	Lt 1	小さなお子様や、オルガンプレーヤー向きです。
⑤ライト2	Lt2	弱いタッチで弾いても大きな音が出ます。
⑥オフ	oFF	弾く強さに関係なく一定の音量で鳴ります。

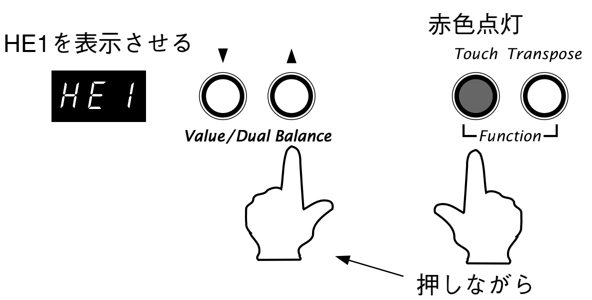


・③ノーマルはTouch（タッチ）ボタンが消灯しているときのカーブです。Touchボタンを消灯させると、いつでもノーマルに戻ります。
・タッチカーブの切り替え機能は、Touchボタンを点灯させたときのカーブを選ぶ機能です。工場出荷時の設定は④ライト1です。
・メモリー･バックアップ機能（35ページ参照）を使って、設定値を記憶させておくことができます。

タッチカーブを切り替える

Touchボタンを押しながら、
Value/Dual Balance（バリュー/デュアル バランス）ボタンを押して選びます。
電源を切るまでは、Touchボタンを点灯させると、ここで指定したカーブが選ばれます。

例: ②ヘビー1を選ぶ



8) キー(調)を変える[トランスポーズ]

弾く鍵盤を変えずに、調の異なる楽器とアンサンブル演奏をしたり、歌う人の声の高さにキー(調)を合わせることができます。
移調(トランスポーズ)する値は半音単位、上下1オクターブずつ(-12〜+12)の範囲で設定できます。
たとえば移調する値を「+5」に設定すると、「ド」を弾いたときに「ファ」の音が出ることになり、「ハ長調」で弾いても「ヘ長調」の曲になります。

移調する値を設定する

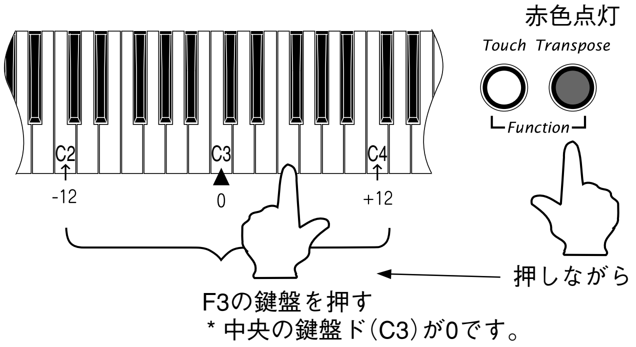
Transpose(トランスポーズ)ボタンを押しながら、C2〜C4の鍵盤を押して指定します。
または、Transposeボタンを押しながら、Value/Dual Balance(バリュー/デュアル バランス)ボタンを押して指定します。

移調する値がディスプレイに表示され、移調がオンになります。

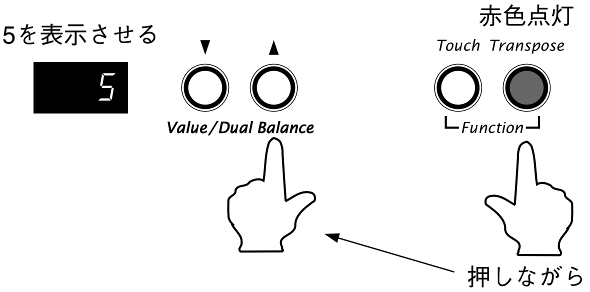
- Transposeボタンを点灯させたときに、移調がオンされます。
- Transposeボタンを押すたびに、移調がオン/オフされます。
- 移調する値を0に指定したときは、Transposeボタンは点灯しません。

- 工場出荷時の設定値は0です。
- メモリー･バックアップ機能(35ページ参照)を使って、設定値を記憶させておくことができます。

例: 移調する値を+5にする



または



9）メトロノームを鳴らす

es1は正確なテンポを刻むメトロノームを5種類内蔵しています。曲に合った拍子を鳴らして練習することができます。

	ディスプレイ表示	拍子
メトロノーム	1-4	1拍子
	2-4	2/4拍子
	3-4	3/4拍子
	4-4	4/4拍子
	6-8	6/8拍子

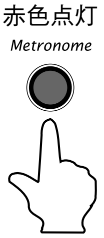
テンポを調節する

メトロノームのテンポ（1分間の拍数）を、30～300の範囲で調節することができます。

1 メトロノームを鳴らす

Metronome（メトロノーム）ボタンを押します。

Metronomeボタンが赤色に点灯し、リズムまたはメトロノームが鳴り出します。

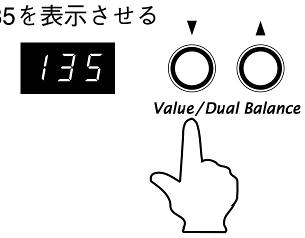


2 テンポを調節する

Value/Dual Balance（バリュー/デュアル バランス）ボタンを押して調節します。

テンポがディスプレイに表示されます。

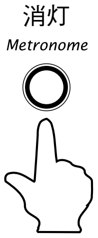
例: 135にする



3 メトロノームを止める

Metronomeボタンを押します。

Metronomeボタンが消灯し、リズムまたはメトロノームが止まります。



・工場出荷時の設定値は120です。
・メモリー・バックアップ機能（35ページ参照）を使って、設定値を記憶させておくことができます。

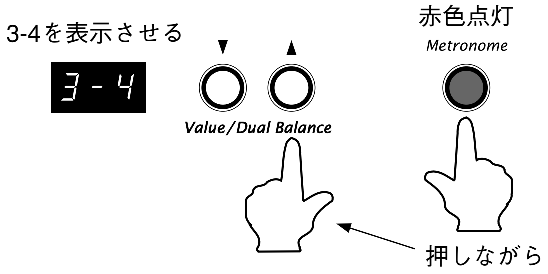
拍子を選ぶ

拍子を選ぶ

Metronome（メトロノーム）ボタンを押しながら、
Value/Dual Balance（バリュー / デュアル バランス）ボタンを押して選びます。
選んだ拍子を表す文字がディスプレイに表示され、拍子が切り替わります。

- 工場出荷時の設定は4/4です。
- メモリー･バックアップ機能（35ページ参照）を使って、設定を記憶させておくことができます。

例: 3/4拍子のメトロノームを選ぶ



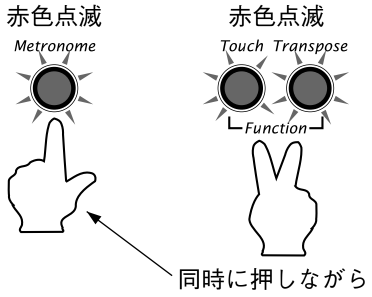
音量を調節する

メトロノームの音量を、1〜5の範囲で調節することができます。

1 *音量設定の準備*

Function（ファンクション）ボタン（Touch（タッチ）ボタンとTranspose（トランスポーズ）ボタン）を押しながら、Metronomeボタンを押します。

Functionボタンと Metronomeボタンが赤色に点滅し、音量設定が可能になります。

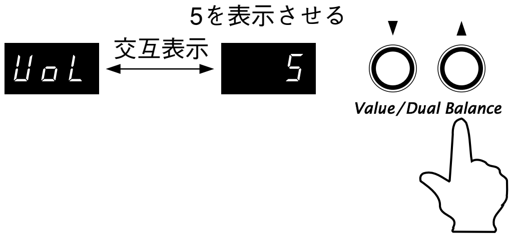


2 *音量を調節する*

Value/Dual Balanceボタンを押して調節します。
音量がディスプレイに表示されます。

Functionボタン、音色ボタンのいずれかを押すと、設定状態から抜けます。

例: 5にする



- 工場出荷時の設定値は3です。
- メモリー･バックアップ機能（35ページ参照）を使って、設定値を記憶させておくことができます。

1）録音する

es1に演奏を3曲まで録音することができます。自分の演奏を録音しあとでじっくり聴いたり、指導者の方にお手本に録音してもらうなど、使い方は様々です。各曲とも2パートに分けて録音できるため、左手パートを先に録音しておき、再生しながら右手パートを録音することができます。また、連弾曲やアンサンブルの曲を1パートずつ録音して完成させることもできます。

パート1に録音する

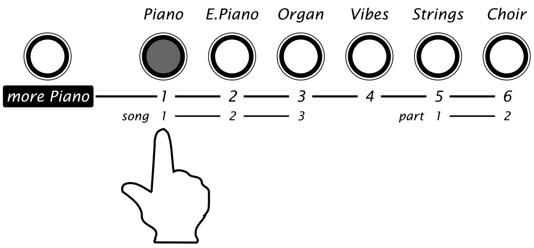
1 録音に使う音色を選ぶ

音色ボタンを押して指定します。

録音を行うと、音色の選択も記録されます。

例: コンサートグランドの音色を選ぶ

赤色点灯



音色選択

2 録音先を指定する

Rec(レック)ボタンを押しながら、録音するSong(ソング)とPart(パート) 1のボタンを順に押します。

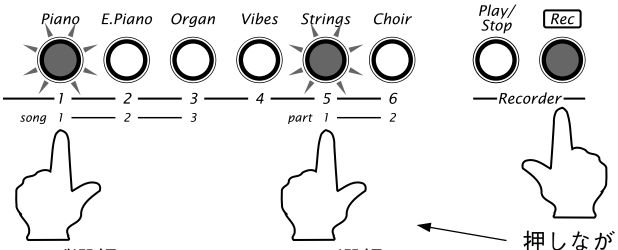
Recボタンを押している間、指定したSongとPart 1のボタンは赤色に点滅します。

Recボタンを離すと、選んだSongとPart 1のボタンが消灯、Recボタンが点滅し、録音待機状態になります。

・録音を中止する場合は、Recボタンを押してRecボタンを消灯させます。

例: ソング1のパート1を選ぶ

赤色点滅　　赤色点滅　　赤色点灯



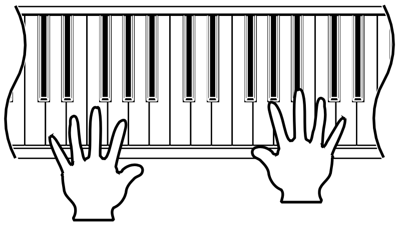
ソング選択　　パート選択　　押しながら

3 録音を開始する

演奏を始めます。

RecボタンとPlay/Stopボタンが点灯して、自動的に録音が始まります。

・Play/Stopボタンを押して録音を開始することもできます。

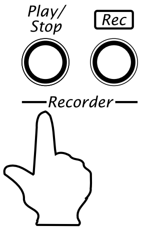


4 録音を終了する

Play/Stopボタンを押します。

RecボタンとPlay/Stopボタンが消灯して、録音が終了します。

消灯



・演奏を失敗したなど録音し直す場合は、上記の1〜4の手順で再度行ってください。

パート2に録音する

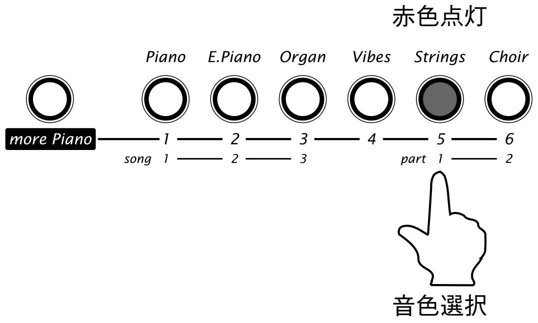
録音済みのパート1を聴きながら、パート2に録音してみましょう。

1 録音に使う音色を選ぶ

音色ボタンを押して指定します。

録音を行うと、音色の選択も記録されます。

例: ストリングスの音色を選ぶ



2 録音先を指定する

Rec（レック）ボタンを押しながら、録音するPart（パート） 2のボタンを押します。

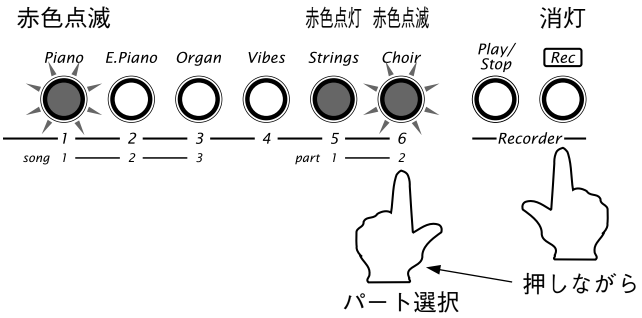
Recボタンを押している間、指定したSong（ソング）とPart 2のボタンは赤色に点滅して、録音待機状態になったことを示します。

また、Part 1のボタンは赤色に点灯しますが、これはすでに録音済みのPart 1が再生待機状態になったことを示します。

Recボタンを離すと、Recボタンは点滅に変わり、選んだSongとPart 2のボタンは点滅をやめて、最後に選んだ音色の点灯に変わります。

・録音を中止する場合は、Recボタンを押してRecボタンを消灯させます。

例: ソング1のパート2を選ぶ

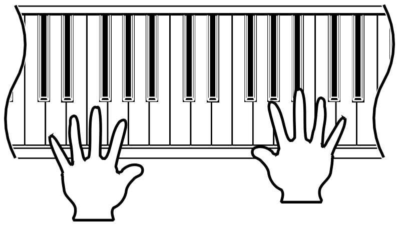


3 録音を開始する

演奏を始めます。

RecボタンとPlay/Stop（プレイ/ストップ）ボタンが点灯してパート1の内容が再生を始めると共に、パート2への録音が始まります。

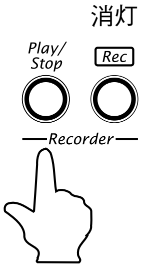
・Play/Stopボタンを押して録音を開始することもできます。



4 録音を終了する

Play/Stopボタンを押します。

RecボタンとPlay/Stopボタンが消灯して、録音が終了します。



・レコーダーの総記憶容量は、ソング1〜3の合計で約1,800音です。録音中に記憶容量がいっぱいになると録音が中止されます。中止される直前までの演奏は録音されます。
・録音した内容は、電源を切ったままでも約1週間保持されます。しかし、長期にわたり電源を入れないでおきますと録音した内容が消えてしまいますので、1週間以内に数分間は電源を入れてください。また、このデータは故障や誤操作などのために失われることがありますので、ご注意ください。
・演奏を失敗した場合など録音し直す場合は、上記の1〜4の手順で再度行ってください。

2）再生する

録音した内容を再生してみましょう。

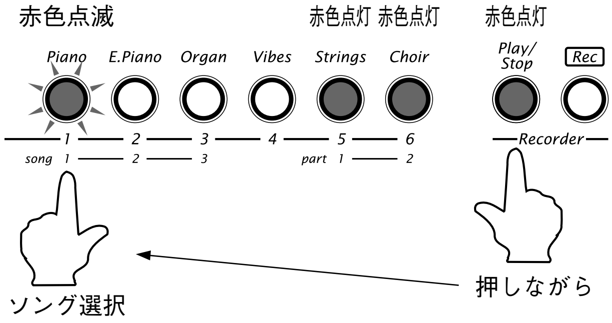
1 曲を指定する

Play/Stop（プレイ/ストップ）ボタンを押しながら、再生するSong（ソング）ボタンを押します。

指定したSongボタンが赤色に点滅します。

Play/Stopボタンを押している間に点灯するSongボタンは、録音済みのボタンです。

例: ソング1を選ぶ



2 再生を開始する

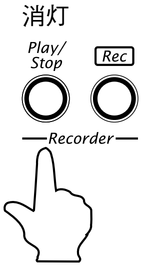
Play/Stopボタンを離します。

再生が始まります。

3 再生を終了する

Play/Stopボタンを押します。

Play/Stopボタンが消灯して、再生が終了します。



パートをミュートする

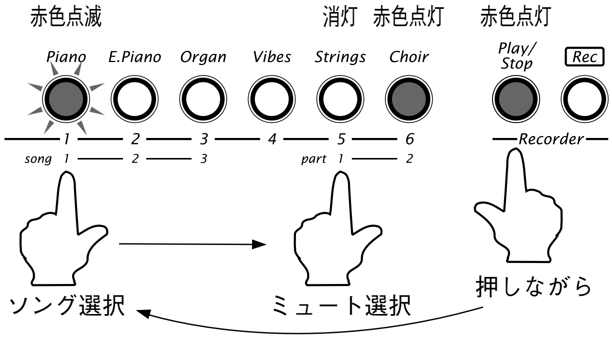
録音済みのパートでも、音を一時的に消して再生することができます。

片方のパートをミュートして再生する

Play/Stopボタンを押しながら、再生するSongボタン、ミュートするPartボタンを順に押します。

ミュートを指定したPartボタンは消灯し、残りのパートだけで再生が始まります。

例: ソング1のパート1をミュートする



3）録音済みのパートを消去する

不要な曲をパートごとに消去することができます。

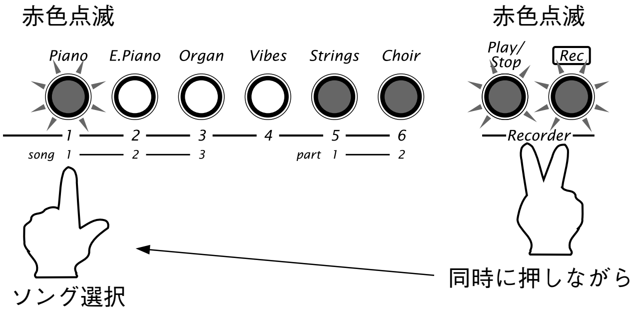
1 曲を指定する

Play/StopボタンとRecボタンを同時に押しながら、消去するパートのSongボタンを押します。Play/StopボタンとRecボタンは押し続けます。

指定したSongボタンが赤色に点滅します。

Play/StopボタンとRecボタンを同時に押したときに点灯するSongボタンは、録音済みのボタンです。

例: ソング1を指定する

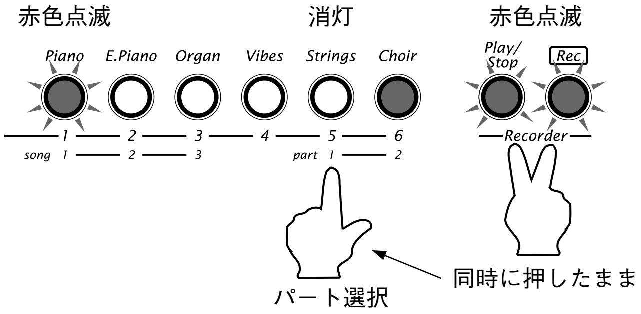


2 消去するパートを指定する

Play/StopボタンとRecボタンを同時に押したまま、消去するPartボタンを押します。

指定したPartボタンが消灯して、消去が完了します。

例: パート1を消去する



・別のパートも消去する場合は、上記の1〜2の手順で繰り返してください。

すべての曲を消去する

録音されているすべての曲（ソング1〜3）を一括で消去することができます。

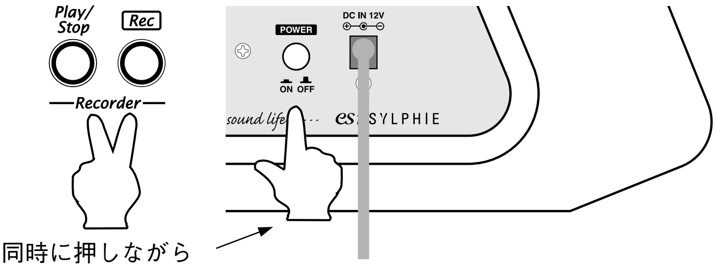
1 消去の準備

電源を切ります。

2 一括消去する

Play/Stop（プレイ/ストップ）ボタンとRec（レック）ボタンを同時に押しながら、電源を入れます。

一括消去が完了します。



1）設定の種類

この章では、es1をさらに発展させて使う設定モードの機能（ファンクション）を紹介します。
設定モードには下表の項目があります。

音色ボタン	音色ボタン赤色点滅		
	機能名	ディスプレイ表示	説明ページ
Piano	チューニング *	tun	33
E.Piano	MIDI送受信チャンネル *	Chn	38
Organ	プログラムナンバー送信	PGo	39
Vibes	ローカルコントロール *	LcL	40
Strings	プログラムナンバー送信ON/OFF *	PGM	41
Choir	マルチティンバー･モード *	MLt	43
Others	メモリー･バックアップ	MEM	35

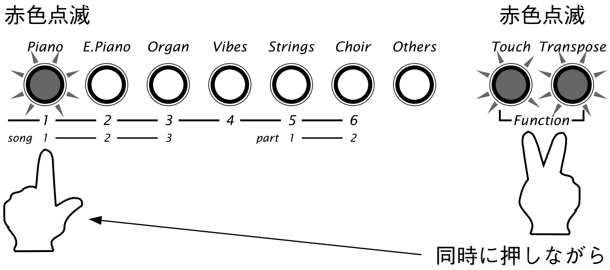
表中の“*”の機能は、メモリー･バックアップ機能（35ページ参照）を使って、設定値を記憶させておくことができます。

■ 設定モードの基本的な操作方法

1 設定モードに入る

Function（ファンクション）ボタン（Touch（タッチ）ボタンとTranspose（トランスポーズ）ボタン）を押しながら、メニューが割り当てられている音色ボタンを押します。

各音色ボタンにそれぞれメニューが割り当てられており、音色ボタンを押すことでメニューを選択することができます。



2 設定を変更する

各メニューの設定は、Value/Dual Balance（バリュー／デュアル バランス）ボタンで変更します。

3 設定モードから抜ける

TouchボタンまたはTransposeボタンを押すか、音色ボタンを押します。

・設定モードの機能（ファンクション）として、上記の他にもイルミネーションパターンの選択機能があります。イルミネーションパターンの選択機能では、音色ボタンでなくMuteボタンを使用します。（34ページ参照）

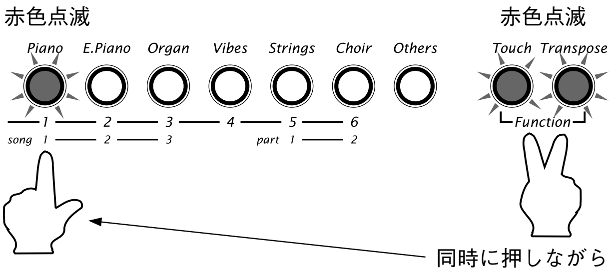
2）音程を微調整する[チューニング]

他の楽器と合奏したり、CDなどの再生音に合わせて演奏するときに、ピッチ(音程)を合わせることができます。A3の音を基準にして、427.0〜453.0Hzの範囲、0.5Hz単位で設定できます。

1 チューニングの設定準備

Functionボタンを押しながら、Pianoボタンを押します。

FunctionボタンとPianoボタンが赤色に点滅し、現在の設定がディスプレイに表示され、現在の基準音が発音されます。



2 設定を変更する

Value/Dual Balanceボタンを押して設定します。

A3の音を基準にして、427.0〜453.0Hzの範囲、0.5Hz単位で設定できます。表示は、百の位が省略されて十の位以下が表示されます。値を大きくするほど音程が高くなります。

Functionボタン、音色ボタンのいずれかを押すと、設定モードから抜けます。

例: 443.0Hzを選ぶ

· 工場出荷時の設定値は440.0Hzです。
· メモリー·バックアップ機能(35ページ参照)を使って、設定値を記憶させておくことができます。

3）イルミネーションパターンを変える

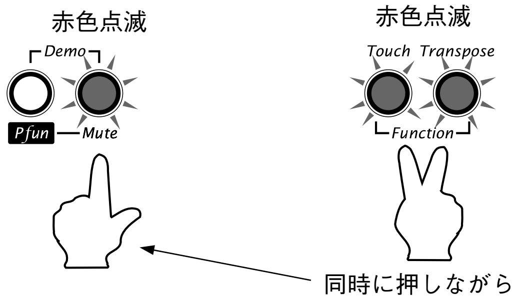
内蔵曲再生中のイルミネーションパターン（各ランプの点灯の仕方）を変えることができます。お好みのパターンを選んでください。

種　類	ディスプレイ表示	機　能
オフ	oFF	イルミネーションは働きません。
パターン1	1	イルミネーションパターン1で点灯します。
パターン2	2	イルミネーションパターン2で点灯します。

1 イルミネーションパターンの設定準備

Function（ファンクション）ボタンを押しながら、Mute（ミュート）ボタンを押します。

FunctionボタンとMuteボタンが赤色に点滅し、現在の設定がディスプレイに表示されます。



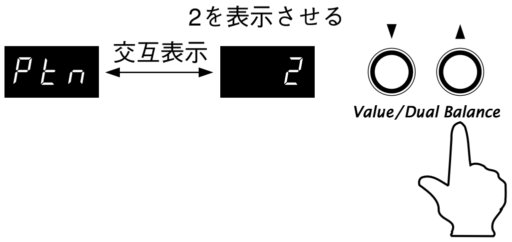
2 設定を変更する

Value/Dual Balance（バリュー/デュアル バランス）ボタンを押して設定します。

3種類の中から選択できます。

Functionボタン、Muteボタンのいずれかを押すと、設定モードから抜けます。

例: パターン2を選ぶ



・工場出荷時の設定はパターン1です。
・メモリー･バックアップ機能（35ページ参照）を使って、設定を記憶させておくことができます。

4）設定を記憶させる[メモリー・バックアップ]

パネル上の各種設定を、記憶（バックアップ）することができます。再び電源を入れると、記憶させた状態で演奏できるようになります。

記憶されるのは次の項目です。

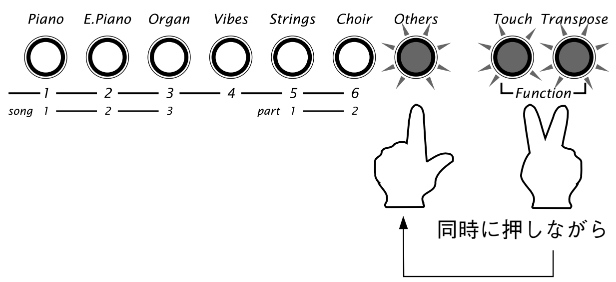
- 音色の選択
- 音色ごとの効果（コーラス、リバーブ）の設定
- イコライザーの設定
- Pfunピアノ曲の伴奏音量
- 各種設定（32ページの表を参照）
- イルミネーションパターンの選択
- タッチカーブ/トランスポーズの設定値
- メトロノームの拍子、テンポ、音量

種　類	ディスプレイ表示	機　能
リセット	rES	電源を入れたときに、工場出荷時の状態に戻ります。
ユーザー	uSr	メモリー・バックアップ実行時のパネル上の設定を記憶します。 電源を入れたときに、記憶した状態になります。

1 メモリーバックアップの設定準備

ファンクション　アザーズ
Functionボタンを押しながら、Othersボタンを押します。

FunctionボタンとOthersボタンが赤色に点滅します。

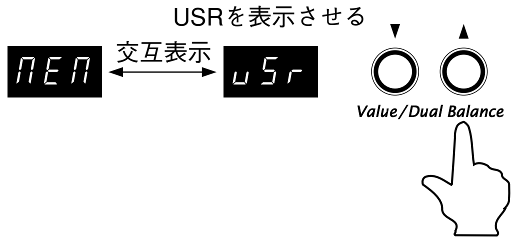


2 設定を変更する

バリュー / デュアル バランス
Value/Dual Balanceボタンを押してリセットかユーザーを選択します。

注）表示を設定しただけでは記憶されません。必ず**3**を実行してください。

例: ユーザーを選ぶ

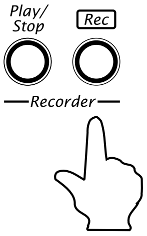


3 設定を記憶する

レック
Recボタンを押します。

上記の設定が実行されます。

Functionボタン、音色ボタンのいずれかを押すと、設定モードから抜けます。



が表示され、メモリー・バックアップが実行される。

- メモリー・バックアップした内容は、電源を切ったままでも約1週間保持されます。しかし、長期にわたり電源を入れないでおきますとバックアップした内容が消えてしまいますので、1週間以内に数分間は電源を入れてください。

5）MIDI（ミディ）機能を使う

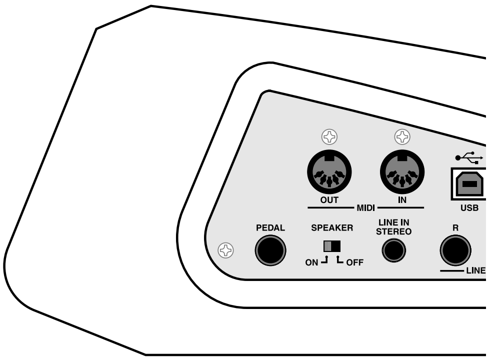
es1にはMIDI機能があります。MIDI機能を使うと、他のMIDI機器と様々なやりとりが可能です。

MIDI（ミディ）について

MIDIとは、Musical Instrument Digital Interface（ミュージカル インストゥルメント デジタル インターフェース）の略称で、MIDI端子を装備した楽器や周辺機器、コンピュータと接続して、演奏情報や各種の命令を送受信するための世界統一規格です。

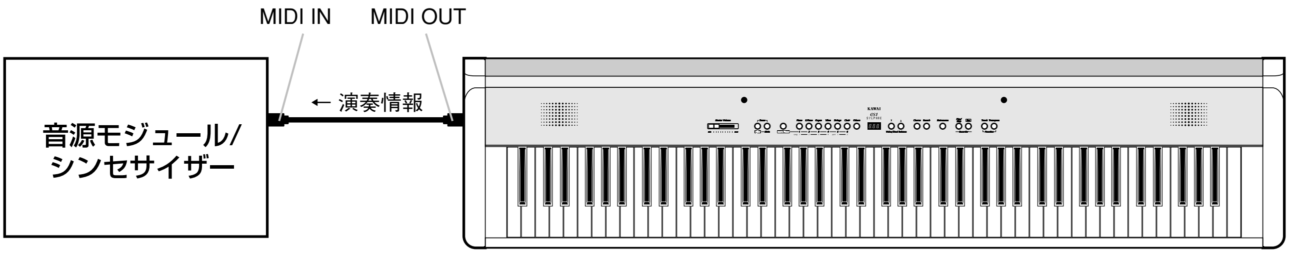
es1のMIDI端子には、MIDI INとMIDI OUTの2種類あります。他の機器との接続にはMIDIケーブルを使用します。

MIDI IN　：演奏情報や各種の命令を受信します。
MIDI OUT：演奏情報や各種の命令を送信します。

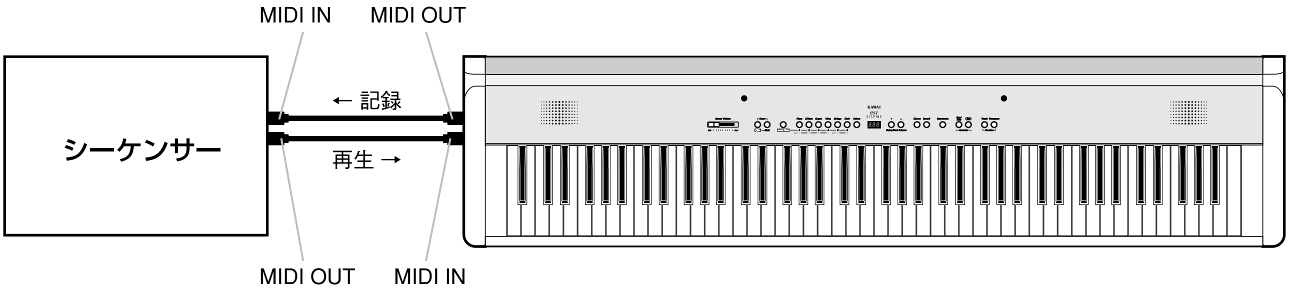


■ MIDI接続例

図のように音源モジュールやシンセサイザーを接続すると、es1で弾いた情報（どの鍵盤をどの程度の強さで弾いたか）が、そのまま接続された機器に伝わり、それらの機器の音とes1の音を重ねて出すことができます。



また、シーケンサーと接続すれば、さらに多くの演奏をシーケンサーに音情報として記録することができ、それを再生することによって練習に役立てることができます。
es1の設定をマルチティンバー･モード･オンにして再生を行えば、ピアノ、ハープシコード、ビブラホンなどの複数の音色によるアンサンブル演奏を楽しむこともできます。



es1のMIDI(ミディ)機能

es1のMIDI機能は、以下の通りです。

◆ **鍵盤情報の送信･受信**
es1を弾いてシンセサイザーなどから音を出したり、その逆が可能です。

◆ **送受信チャンネルの設定**
送受信チャンネルを1～16の範囲で設定することができます。

◆ **プログラム(音色)ナンバーの送信**
es1とMIDI接続した機器の音色を、es1側の操作で変えたり、その逆が可能です。

◆ **ペダル情報の送信・受信**
付属のフットペダル(F-1r)の接続時に、ダンパーペダルのオン/オフ情報を送受信できます。
別売のフットペダル(F-2r：2本ペダル)を使用すれば、ソフトペダルのオン/オフ情報も送受信できます。

◆ **ボリューム情報の受信**
シンセサイザーなどを弾いてes1の音を出しているとき、シンセサイザーでes1の音量をコントロールすることができます。

◆ **マルチティンバー･モードの使用**
es1をマルチティンバー･モード オンにすると、複数の異なるチャンネルの鍵盤情報を受信して、それぞれ別の音色で鳴らすことができます。

◆ **エクスクルーシブデータの送信･受信**
パネル操作や各種設定モードで設定した値を、エクスクルーシブデータとして送受信させることができます。

◆ **es1のレコーダーの再生情報の送信**
es1のレコーダーに録音した演奏を、MIDI接続した電子楽器側で鳴らしたり、外部シーケンサーに録音することができます。
ただしメトロノームやPfun(ピーファン)ピアノ曲データ、コンサートマジック曲データは、MIDI送信されません。

MIDI送受信チャンネルの設定

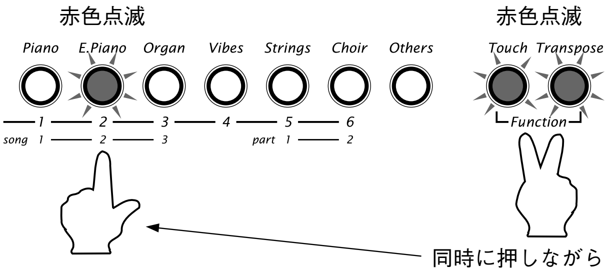
接続するMIDI機器と演奏情報や各種の命令をやりとりするためには、送信側の送信チャンネルと受信側の受信チャンネルを一致させておく必要があります。
es1では、送信･受信共通のチャンネルを設定するようになっています。

ディスプレイ表示	受信チャンネル	送信チャンネル
on 1	オムニ･オン	1
1	1	1
2	2	2
3	3	3
	·	
	·	
	·	
16	16	16

※ 工場出荷時の設定はon1（オムニ･オン、送信チャンネルは1）の状態になっています。オムニ･オンは、1〜16チャンネルすべての情報を受信できる状態です。MIDI送受信チャンネルの設定を行うとオムニ･オフになり、設定したチャンネルの情報のみ受信するようになります。

1 MIDI送受信チャンネルの設定準備

Functionボタンを押しながら、E.Pianoボタンを押します。
現在の設定がディスプレイに表示されます。

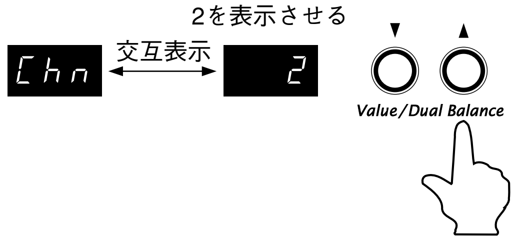


2 設定を変更する

Value/Dual Balanceボタンを押して設定します。
on1、1〜16チャンネルの範囲で指定できます。

Functionボタン、音色ボタンのいずれかを押すと、設定モードから抜けます。

例: チャンネル2を選ぶ



· メモリー･バックアップ機能（35ページ参照）を使って、設定を記憶させておくことができます。

プログラムナンバーを送信する

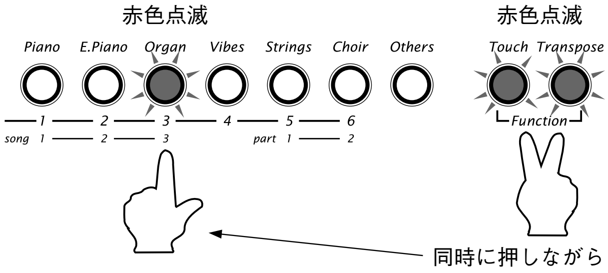
es1でプログラム（音色）ナンバー送信の操作をして、外部機器の音色を切り替えることができます。

・1～128の範囲でプログラムナンバーを送信できます。
・40ページで紹介する「プログラムナンバー送信 オン/オフの設定」に影響されることはありません。

1 プログラムナンバーの指定準備

Function(ファンクション)ボタンを押しながら、Organ(オルガン)ボタンを押します。

現在の設定がディスプレイに表示されます。

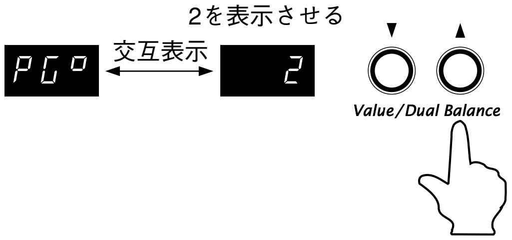


2 プログラムナンバーを指定する

Value/Dual Balance(バリュー/デュアル バランス)ボタンを押して指定します。

1～128の範囲で指定できます。

例:プログラムナンバー2を選ぶ

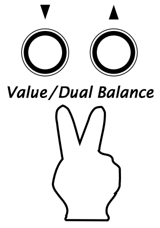


3 プログラムナンバーを送信する

Value/Dual Balanceボタンを2つ同時に押します。

プログラムナンバーが送信されます。

Functionボタン、音色ボタンのいずれかを押すと、設定モードから抜けます。



ローカルコントロール オン/オフの設定

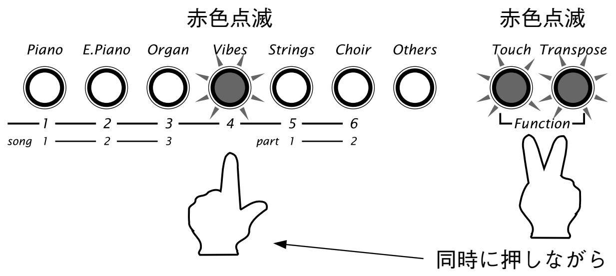
es1の演奏音をes1で出すか出さないかを指定できます。
ローカルコントロール オンを指定すると、es1の鍵盤を弾いたときに通常通りes1から音が出ます。
ローカルコントロール オフを指定すると、es1の鍵盤を弾いてもes1から音が出なくなります。
es1の演奏音を外部機器側だけで鳴らしたいときは、ローカルコントロール オフを指定してください。

・ローカルコントロール オフを指定した場合でも、外部機器の演奏情報を受信してes1から音を出すことができます。

1 ローカルコントロールの設定準備

Function（ファンクション）ボタンを押しながら、Vibes（バイブズ）ボタンを押します。

現在の設定がディスプレイに表示されます。

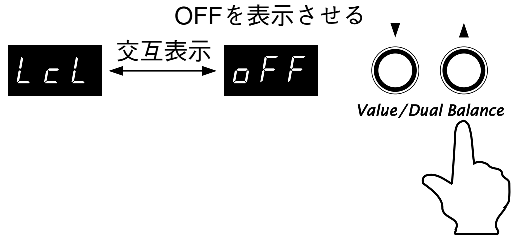


2 設定を変更する

Value/Dual Balance（バリュー/デュアル バランス）ボタンを押して設定します。

Functionボタン、音色ボタンのいずれかを押すと、設定モードから抜けます。

例: ローカルコントロール オフを選ぶ



・工場出荷時の設定はローカルコントロール オンです。
・メモリー･バックアップ機能(35ページ参照)を使って、設定を記憶させておくことができます。

プログラムナンバー送信 オン/オフの設定

es1の音色ボタンを操作したときにプログラム(音色)ナンバーを送信するかしないかを指定できます。
プログラムナンバー送信 オンを指定すると、es1で音色選択をしたときに通常通りes1からプログラムナンバーを送信します。(次ページのプログラムナンバー表を参照)
プログラムナンバー送信 オフを指定すると、es1で音色選択をしてもes1からプログラムナンバーは送信しません。es1で音色を切り替えても外部機器側の音色を切り替えたくない場合には、プログラムナンバー送信 オフを指定してください。

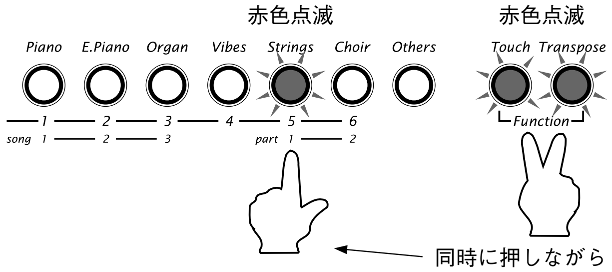
※プログラムナンバー送信 オンを指定しておくと、以下のMIDIエクスクルーシブデータも送信されます。

- コーラスのオン/オフ操作
- リバーブの設定(オン/オフ、タイプ)操作
- チューニング操作
- プログラムナンバー送信オン/オフの操作
- タッチカーブセレクトの操作
- デュアルの設定操作
- マルチティンバー・モード オン/オフの操作

1 プログラムナンバー送信の設定準備

Function(ファンクション)ボタンを押しながら、Strings(ストリングス)ボタンを押します。

現在の設定がディスプレイに表示されます。

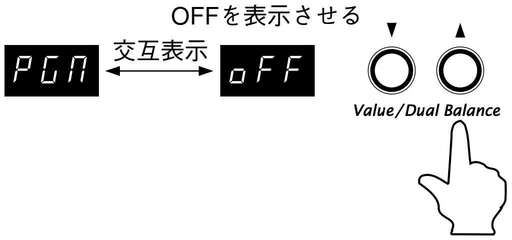


2 設定を変更する

Value/Dual Balance(バリュー/デュアル バランス)ボタンを押して設定します。

Functionボタン、音色ボタンのいずれかを押すと、設定モードから抜けます。

例: プログラムナンバー送信 オフを選ぶ



- 工場出荷時の設定はプログラムナンバー送信 オンです。
- メモリー・バックアップ機能(35ページ参照)を使って、設定を記憶させておくことができます。

- デュアルモード時には、デュアルモードのオン/オフ情報、音色の切り替えなどをエクスクルーシブで送信しますが、プログラムナンバーは送信しません。(マルチティンバー・モード オンのときは送信します。)

◆音色に対応するプログラムナンバー

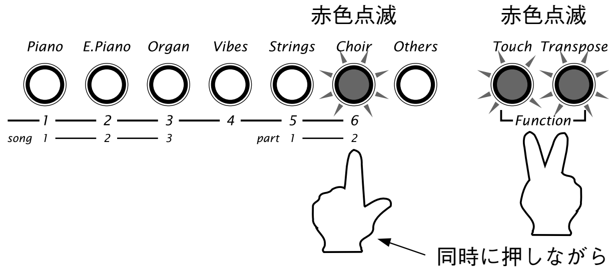
音色	マルチティンバーモード			
	オフ時	オン時		
	Prog #	Bank MSB	Bank LSB	Prog #
Piano				
コンサート グランド	1	121	0	1
モダン ピアノ	2	121	0	2
E. Piano				
クラシック エレクトリック ピアノ	3	121	0	5
モダン エレクトリック ピアノ	4	121	0	6
Organ				
ジャズ オルガン	5	121	0	18
チャーチ オルガン	6	121	0	20
Vibes				
ビブラホン	7	121	0	12
ハープシコード	8	121	0	7
Strings				
ストリングス	9	121	0	49
ビューティフル ストリングス	10	121	0	50
Choir				
クワイヤー	11	121	0	53
ニューエイジ	12	121	0	89
Others				
メロー グランド	13	121	2	1
ロック ピアノ	14	121	1	2
60’s エレクトリック ピアノ	15	121	3	5
レジェンド エレクトリック ピアノ	16	121	3	6
アコースティック ベース	17	121	0	33
フィンガー ベース	18	121	0	34
ピック ベース	19	121	0	35
フレットレス ベース	20	121	0	36
シンセ ベース	21	121	0	39
more Piano				
ピアノ ストリングス 1	22	95	101	1
ピアノ ストリングス 2	23	95	102	1
ピアノ ボイス	24	95	103	1
ピアノ ブラス	25	95	104	1
エレピ ストリングス	26	95	101	6
エレピ ウィンド	27	95	102	6

マルチティンバー･モード オン/オフの設定

マルチティンバー･モード オン/オフの設定ができます。
通常のマルチティンバー･モード オフのときは、設定したMIDI（ミディ）チャンネル（1〜16のいずれか1つ）で情報を送受信しますが、マルチティンバー･モード オンを指定すると、複数のMIDIチャンネルの演奏情報を受信できるようになり、個々のチャンネルで受信したプログラムナンバーに各音色が対応して鳴ります。（受信したプログラムナンバーに対応する音色は前ページの表の通りです。）
この機能を使うことにより、外部のシーケンサーに記録してあるアンサンブル演奏を、es1の複数の音色で鳴らすことができます。

1 マルチティンバー･モードの設定準備

Function（ファンクション）ボタンを押しながら、Choir（クワイヤー）ボタンを押します。
現在の設定がディスプレイに表示されます。

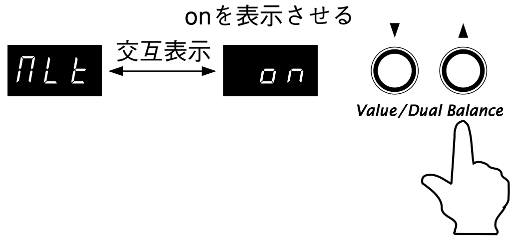


2 設定を変更する

Value/Dual Balance（バリュー/デュアル バランス）ボタンを押して設定します。

Functionボタン、音色ボタンのいずれかを押すと、設定モードから抜けます。

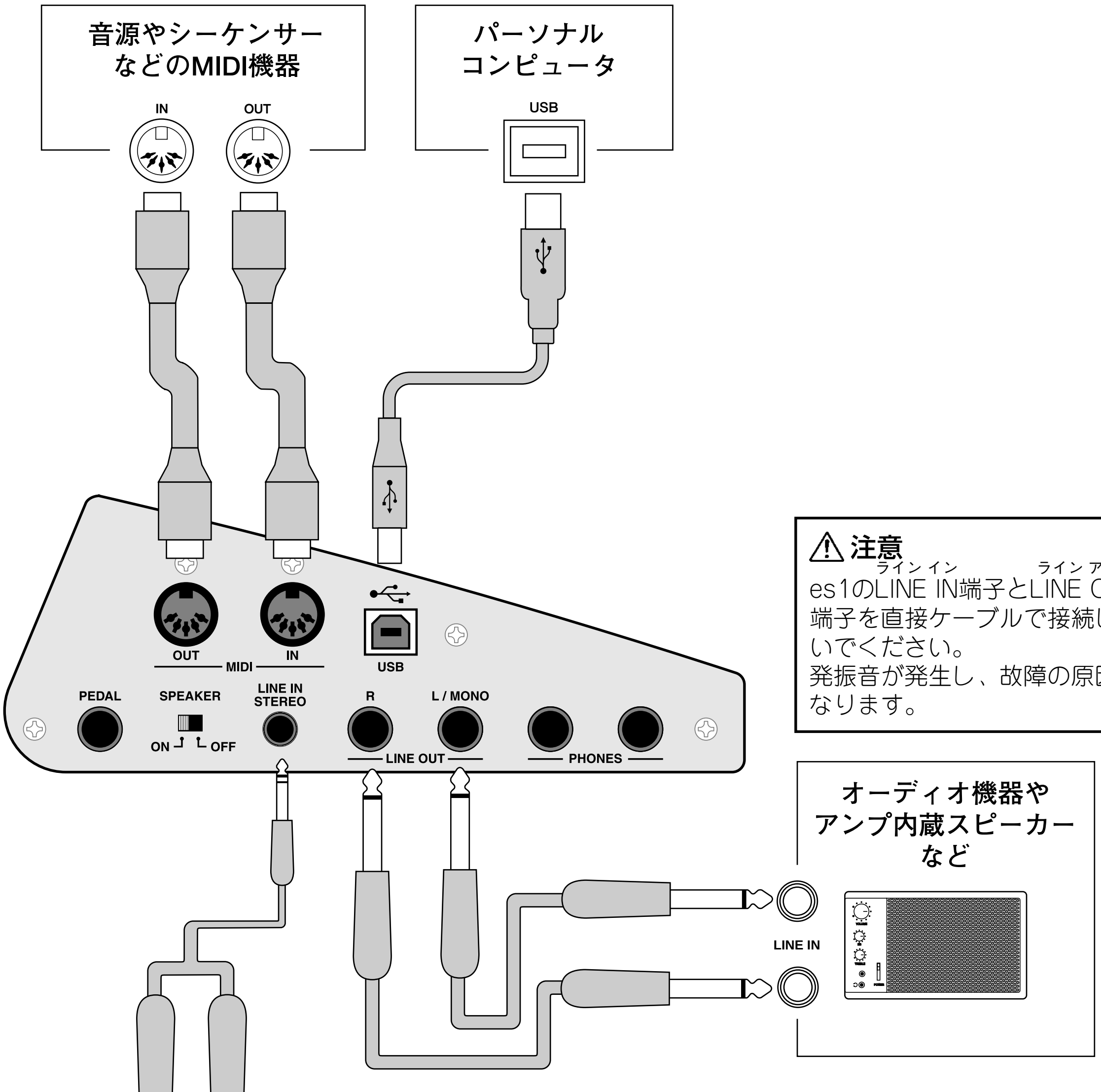
例: マルチティンバー･モード オンを選ぶ



- マルチティンバー･モード オンのときは、10チャンネルで受信したデータは発音しません。
- 工場出荷時の設定はマルチティンバー･モード オフです。
- メモリー･バックアップ機能（35ページ参照）を使って、設定を記憶させておくことができます。

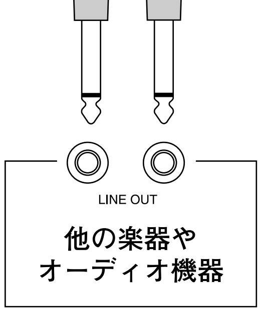
1）外部機器と接続する

⚠ 外部機器と接続する場合には、各機器の電源を切ってください。また、電源を入れたり切ったりする前に各機器のボリュームを最小にしてください。
es1や外部機器の故障の原因になります。



⚠ 注意

es1のLINE IN端子とLINE OUT端子を直接ケーブルで接続しないでください。
発振音が発生し、故障の原因になります。



① LINE IN STEREO端子（ライン入力ステレオ端子）<ミニジャック>

他の楽器やオーディオなどのライン出力端子とこの端子を接続すると、接続した機器の音をes1の内蔵スピーカーから出力できます。
この場合、es1側で音量を調節できませんので、外部機器側で調節してください。

② LINE OUT端子（ライン出力端子）<標準ジャック>

この端子をアンプ内蔵スピーカーやステレオなどのライン入力端子に接続すると、es1の音を外部機器で鳴らしたり、ミニディスクやカセットテープに録音することができます。

外部機器とステレオ接続する場合には、R端子とL/MONO端子両方を使用し、モノラル接続する場合にはL/MONO端子だけを使用してください。

・es1の出力レベルは、Master Volumeで調節することができます。

LINE端子について

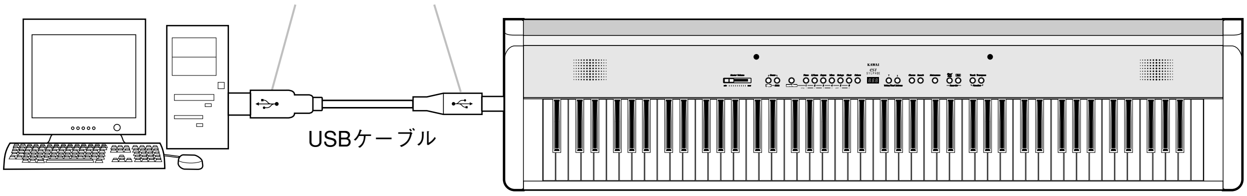
接続する機器によって使用するケーブルは異なりますので、機器にあわせて市販のケーブルをお買い求めください。

③ MIDI端子（ミディ）

MIDI規格対応の機器と接続する端子です。市販のMIDIケーブルをご使用ください。

④ USB端子（ユーエスビー）

市販のUSBケーブルでコンピュータと接続して、MIDIデータをやりとりすることができます。
・USB端子にはA端子とB端子があり、コンピュータはA端子、電子ピアノとはB端子でそれぞれ接続します。



USBドライバーについて

コンピュータと電子ピアノをUSB接続してデータをやりとりするためには、電子ピアノを正しく動作させるためのソフトウェア(USBドライバー)がコンピュータに組み込まれている必要があります。お使いのコンピュータのOSによって使用するUSBドライバーが異なりますので、下記の説明をよく読んでお使いください。

Windows XP/Meをお使いの方
Windowsに搭載されている標準USBドライバーを使用しますので、新たにUSBドライバーをインストールする必要はありません。

Windows 2000/98SEをお使いの方
指定の専用USBドライバーをコンピュータに追加する必要があります。下記のカワイホームページより専用USBドライバーをダウンロードしコンピュータにインストールしてください。

http://www.kawai.co.jp/download_demo/driver/

Macintoshをお使いの方
Mac用のUSBドライバーはありません。市販のUSB対応MIDIインターフェースを介して、es1とMIDI接続してください。

USBに関するご注意

・MIDIとUSBが同時に接続された場合、USBが優先されます。

・電子ピアノとコンピュータをUSBケーブルで接続する場合は、まずUSBケーブルを接続してから電子ピアノの電源を入れてください。

・電子ピアノとコンピュータをUSB接続した場合、通信を開始するまでしばらく時間がかかることがあります。

・電子ピアノとコンピュータをハブ経由で接続し動作が不安定な場合は、コンピュータのUSBポートに直接接続してください。

・下記の動作中、電子ピアノの電源オン/オフ、USBケーブルの抜き差しを行うと、コンピュータや電子ピアノの動作が不安定になる場合があります。

* ドライバーのインストール中
* コンピュータの起動中
* MIDIアプリケーションが動作中
* コンピュータと通信中
* 省電力モードで待機中

※ お使いのコンピュータの設定によっては、USBが正常に動作しない場合があります。ご使用になるコンピュータの取扱説明書をよくお読みの上、適切な設定を行ってください。

2）主な仕様

■ 鍵　盤	88鍵/アドバンスト・ハンマー・アクションⅢ
■ 同時発音数	最大32音（音色により異なる）
■ 音色数	27音色
■ 効果	コーラス、リバーブ（3種類）、イコライザー（6種類）
■ その他の機能	マスターボリューム、デュアル、デュアルバランス、音色デモ（12曲）、Pfunピアノ曲（5曲）、
	コンサートマジック（88曲）、タッチカーブセレクト（6種類）、トランスポーズ、チューニング、
	メモリーバックアップ、スピーカーON/OFFスイッチ
■ レコーダー	2パート（トラック）×3ソング、総記録容量　約1,800音
■ メトロノーム	1、2/4、3/4、4/4、6/8拍子
■ ペダル	ダンパー,（ソフト：オプションの2本ペダル接続時）
■ 外部端子	ヘッドホン（2系統）、ペダル、MIDI（IN、OUT）、USB端子、
	LINE OUT（L/MONO、R）、LINE IN（ステレオミニ）
■ 出　力	7W×2
■ スピーカー	（12cm×8cm）×2
■ 定格電圧	AC100V、50/60Hz
■ 消費電力	30W
■ 寸　法	（W×D×H）： 136.2×32.1×13.8（cm）譜面台除く
■ 重　量	19.5Kg

3）別売品のご紹介

◆固定式専用スタンド〈HM-1〉
20,000円（税別）

従来にはない斬新なスタイルのスタンドです。

◆固定式専用スタンド〈HM-2〉
12,000円（税別）〈予価〉

es1をしっかりと固定できる据え置き型のスタンドです。

◆スタンド〈EST-90〉
9,000円（税別）

手元のレバーで簡単に高さ調整が可能なX型スタンドです。

◆Pfunピアノ曲集
1,600円（税込み）

曲データ付き楽譜です。コンピュータを使ってes1に追加することにより、Pfunピアノ曲として楽しむことができます。

◆コンサートマジック曲集 Vol. 2
2,600円（税込み）

全88曲掲載しています。バインダー形式なので、見やすくて取り扱いも大変便利です。

◆ダストカバー〈KDC-2〉
2,500円（税別）

譜面立てを付けたままes1を覆えるダストカバーです。

◆ 2本ペダル〈F-2r〉
6,000円（税別）

ダンパーペダルとソフトペダルにより、よりピアノらしい演奏を可能にします。

◆ イス〈WB-6〉
6,000円（税別）

高さを48、51、54cmの3段階に調整できます。

◆ ヘッドホン〈SH-2〉
3,500円（税別）

◆ ヘッドホン〈SH-5〉
5,500円（税別）

●仕様および外観、価格は改良のため予告なく変更させていただく場合があります。
●お問い合わせ先：株式会社 河合楽器製作所　電子楽器事業本部
TEL. 053(457)1277　FAX. 053(457)1279

4）MIDIインプリメンテーションチャート

◇ KAWAI［Model es1］MIDI IMPLEMENTATION CHART

Date : AUGUST, 2002
Version : 1. 0

ファンクション		送　信	受　信	備　考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能	1 1～16	1 1～16	
モード	電源ON時 メッセージ 代用	モード3 × *******	モード1 モード1, 3 * ×	オムニ･オン、チャンネル1 *オムニ･オフ、チャンネル1～16に設定可能
ノート ナンバー	音域	9～120 ** *******	0～127 0～113	**トランスポーズを含む
ベロシティ	ノート･オン ノート･オフ	○　9nH　v=1～127 ×　8nH　v=0	○ ×	
アフター タッチ	キー別 チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ･ベンド		×	×	
コントロール チェンジ	7 64 67	× ○ ○ *2	○ ○ ○	ボリューム ダンパーペダル ソフトペダル
プログラムチェンジ 設定可能範囲		○	○	*1
エクスクルーシブ		○	○	
コモン	ソングポジション ソングセレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアル タイム	クロック コマンド	× ×	× ×	
その他	ローカルON／OFF オールノートオフ アクティブセンシング リセット	× × ○ ×	○ ○ ○ ×	
備　考		*1　プログラムチェンジ対応表参照 *2　F-2r（オプションの2本ペダル）接続時		

モード1：オムニオン、ポリ　　モード2：オムニオン、モノ
モード3：オムニオフ、ポリ　　モード4：オムニオフ、モノ

○: あり
×: なし

付録

5）容器包装材の識別表示について

資源有効利用促進法に基づく表示

◎本体緩衝パッド　　：ＰＳ
◎本体包装用シート　：ＰＥ
◎付属品用袋　　　　：ＰＥ
◎取扱説明書類袋　　：ＰＥ

ダンボールは
リサイクル

◎外箱
◎緩衝材
◎付属品用箱

※ごみに出すときには市町村の区分にしたがってください。

KAWAI
株式会社河合楽器製作所
電 子 楽 器 事 業 本 部
〒430-8665　静岡県浜松市寺島町200番地
TEL. 053(457)1277 ／ FAX. 053(457)1279
http://www.kawai.co.jp/

KPSZ-0035
0210S - Printed in Japan